

いい だ じょう か まち い せき
飯 田 城 下 町 遺 跡

2004年3月

長野県飯田市教育委員会

序

私たちの飯田市は、美しい自然に恵まれ、長い歴史と尊い伝統文化につつまれた人情豊かなまちとして知られており、市民憲章では「伝統を生かし、文化の香り高い飯田市をつくります」と宣言しています。かつて小京都といわれた飯田の町は、昭和22年の飯田大火で旧市街地の大半を焼失し城下町の面影が失われてしまいました。この未曾有の火災にめげず市民が丸となって復興を成し遂げてきたわけですが、近年市街地が郊外に拡散し旧市街地が空洞化する中で、中心市街地の再開発が大きな課題となっています。すでに市街地再開発事業は第1地区が完了し、現在第2地区や優良建築物等整備事業が進行中であるのをはじめ官民一体となって課題解決に取り組む中、今回計画されました飯田郵便局の現地建替工事も中心市街地の活性化につながるものです。

中心市街地周辺は、大火によって町並みや文化財が多く失われ、城下町以前の姿は断片的に把握されているのみですが、旧石器時代末以来連続とした人々の営みがあったことがうかがえます。このような歴史・文化を物語る埋蔵文化財をはじめ多くの文化財を、できるかぎり現状の姿のまま後世に残し伝えるのが私たちの務めですが、今のような公共性が高い事業の場合、次善の策として事前に発掘調査を実施して記録保存を図ることもやむを得ないものといえましょう。

以上のような経過で今回の発掘調査が実施された結果、今から約4,500年前の縄文時代や、約1,800年前の弥生時代といったムラの跡が発見されました。また、江戸時代の終わりごろには城下町が拡大し調査地周辺も町屋の一面に取り込まれていった様子が明らかにされました。

今後、本書が広く活用されるとともに、更に調査地点周辺の旧市街地でも文化財保護に意を尽くし、城下町飯田やそれ以前の姿を明らかにすることが、文化の香り高い飯田市をつくるために必要かと思えます。

最後になりましたが、文化財保護の本旨にご理解を賜りご協力いただきました信越郵政局、ならびに発掘調査に従事された関係者の方々に深甚なる感謝を捧げまして発刊の辞といたします。

平成16年3月

飯田市教育委員会

教育長 富田 泰啓

例 言

1. 本書は飯田郵便局建設に先立って実施された、長野県飯田市鈴加町1丁目7番地所在の飯田城下町遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 調査は信越郵政局の委託を受け、飯田市教育委員会が直営実施した。
3. 調査は、平成14年度に現地作業、15年度に整理作業および報告書作成作業を行った。
4. 調査実施にあたり、基準点測量を株式会社ジャステックに、遺物写真撮影を西大寺フォトにそれぞれ委託実施した。
5. 発掘作業・整理作業にあたり、遺跡略号としてIJM、鈴加町の町名略号としてCZ、これに丁目・地番1-7付して、IJM.CZ1-7を一貫して用いた。なお、飯田城下町遺跡にかかる町名略号については以下のとおりとする。
吾妻町-AZ、江戸町-ED、追手町-OT、厩町-OG、大久保町-OK、大通-OD
長姫町-OH、銀座-GZ、小伝馬町-KT、桜町-CM、鈴加町-CZ、大王路-DO
主税町-CR、知久町-CK、中央通り-CD、伝馬町-TM、東新町-TS、東和町-TW
通り町-TR、常磐町-TK、仲之町-NN、錦町-NT、二本松-NM、馬場町-BB
本町-HM、松尾町-MO、箕瀬町-MZ、元町-MM
6. 本報告書では、SB-竪穴住居址・竪穴、SD-溝址・溝状址・暗渠、SE-井戸、SK-土坑・地下室、SM-方形周溝墓の遺構略号を使用し、遺構番号は遺跡内の続き番号を付している。
7. 遺構・遺物の調査・記述・表現方法については、『飯田城下町遺跡』（飯田市教委 2001）・『辻前遺跡』（同 2003a）に準拠した。なお、石器分類表における表記は、硬-硬砂岩、緑-緑色岩、黒-黒曜石、珪-チャート、珪片-珪質片岩、未-未成品と略記した。
8. 土層の色調については、『新版標準土色帖』の表示に基づく土色計（第一合成株式会社製、SCR-1）を用い、マンセル表示で示した。
9. 本書の記載順は時代別を優先し、遺構図は挿図とした。
10. 本書に関わる図面の整理は、調査員・整理作業員の協力により馬場保之が行った。
11. 本書の執筆・編集は馬場が行った。
12. 本書に関連した出土遺物および図面・写真類は飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館・飯田市上郷考古博物館に保管している。

本文目次

序			
例言			
目次			
第I章 経過	1	第5節 弥生時代	21
第1節 調査に至るまでの経過	1	(1)竪穴住居址	21
第2節 調査の経過	1	(2)方形周溝墓	21
第3節 調査組織	1	第6節 中世	22
第II章 遺跡の環境	3	(1)溝址・溝状址	25
第1節 自然環境	3	(2)小柱穴	25
第2節 歴史環境	5	第7節 近世～近代	25
第III章 調査結果	9	(1)地下室	25
第1節 調査区の設定	9	(2)暗渠排水	25
第2節 微地形	9	(3)井戸	25
第3節 基本層序	9	(4)溝址・溝状址	25
第4節 縄文時代	9	(5)小柱穴	25
(1)竪穴住居址	10	第8節 時期不明	25
(2)竪穴	17	(1)溝址・溝状址	25
(3)土坑	21	第IV章 まとめ	35
(4)周辺柱穴	21	引用参考文献	37
(5)遺構外出土遺物	21	報告書抄録	85

挿図目次

挿図1 調査遺跡および周辺遺跡位置図	4	挿図10 S K54・56・58～60・62	19
挿図2 調査地点位置図	6	挿図11 S K63～69・71、S E02	20
挿図3 基準メッシュ図区画調査位置	8	挿図12 S M02	22
挿図4 基本層序	9	挿図13 S M03	23・24
挿図5 S B03～06	11	挿図14 S D12～16	26
挿図6 S B07・08	13	挿図15 S D20～25・28・29	27
挿図7 S B09～12	15	挿図16 S D26・27	28
挿図8 S B14	16	挿図17 周辺柱穴平面図(1)	29
挿図9 S B02・13・15～18	18	挿図18 周辺柱穴平面図(2)	30

挿図19 周辺柱穴平面図(3)	31	挿図21 周辺柱穴平面図(5)	33
挿図20 周辺柱穴平面図(4)	32	挿図22 周辺柱穴平面図(6)	34

付 図 目 次

付図1 飯田城下町遺跡(鈴加町1-7) 全体図

図 版 目 次

第1図 S B 04~06出土土器	55	第7図 周辺柱穴、遺構外、S B 16、 S M 03、S D 12・13出土遺物	61
第2図 S B 06・07出土土器	56	第8図 出土土器(1)	62
第3図 S B 07・08・12・14出土土器	57	第9図 出土土器(2)	63
第4図 S B 12・14・15出土土器	58	第10図 出土土器(3)	64
第5図 S B 15出土土器	59		
第6図 S B 15・17・18、S K 58・63・65 ・67・68出土土器	60		

表 目 次

第1表 出土土器分類表	38	第10表 遺構属性表(8)	47
第2表 石器観察表	39	第11表 遺構属性表(9)	48
第3表 遺構属性表(1)	40	第12表 遺構属性表(10)	49
第4表 遺構属性表(2)	41	第13表 遺構属性表(11)	50
第5表 遺構属性表(3)	42	第14表 遺構属性表(12)	51
第6表 遺構属性表(4)	43	第15表 遺構属性表(13)	52
第7表 遺構属性表(5)	44	第16表 遺構属性表(14)	53
第8表 遺構属性表(6)	45	第17表 遺構属性表(15)	54
第9表 遺構属性表(7)	46		

写真目次

- | | | | |
|------|--------------------------|------|--|
| 図版1 | 遺構分布状況 | 図版12 | 発掘作業風景 委託測量作業 |
| 図版2 | 遺構分布状況 S B04 | 図版13 | S B04～S B06 S B08出土遺物 |
| 図版3 | S B05～S B07 | 図版14 | S B07 S B12・14 S B12出土遺物 |
| 図版4 | S B07 S B08 同炉 | 図版15 | S B15出土遺物 |
| 図版5 | S B10 S B11 S B12・S B14 | 図版16 | S B15炉・柱穴 S K58・63・65・67・68
遺構外出土遺物 |
| 図版6 | S B12炉 S B14P 7 S B14P 9 | 図版17 | 遺構外 S B16 S B04 S B05出土遺物 |
| 図版7 | S B15 同炉 S B17 | 図版18 | S B07 S B08 S B12・14 S B12
出土遺物 |
| 図版8 | S M02 S M03 S D12 | 図版19 | S B14 S B15 S K56・58・63・67
遺構外出土遺物 |
| 図版9 | S D26 S D27 S D29 | | |
| 図版10 | S K58 同細部 S K71 | | |
| 図版11 | S E02 同側面 重機作業風景 | | |

第I章 経 過

第1節 調査に至るまでの経過

平成12年11月に信越郵政局より飯田郵便局々舎建替計画が提示され、諸協議を重ねた。計画の具体化を受けて、平成14年5月1日に飯田郵便局長 鷲尾俊八と飯田市長 田中秀典との間で委委託契約を締結し、平成14年5月9・10日に試掘調査を実施した。その結果縄文時代中～後期の土坑群が把握され、本発掘調査実施が不可欠と判断された。

9月6日、信越郵政局長 伊藤 聖と飯田市長 田中秀典の間で本発掘調査に関する委委託契約を締結した。本発掘調査は用地取得と仮局舎移転後の2期に分けて行い、さらに1期目は郵便局利用者の駐車場確保のため4段階、2期目は現局舎解体工事との兼合いから2段階に分けて実施することとなった。

第2節 調査の経過

9月17日、1期目の調査に着手し、北1区から重機を入れて表土剥ぎを行った。9月20日より作業員を入れて遺構検出作業を行ない、確認された遺構から順次掘り下げ、精査した。そして、全景写真・個別遺構写真の撮影、実測等の作業を行った。続いて9月27日から北2区、10月2日から南区、10月8日から北3区の調査を同様に進め、調査後埋め戻して現地での作業を10月11日終了した。なお、調査にあたり基準点設置を株式会社ジャステックに委託実施した。

第2期の調査は平成15年2月21日調査に着手した。まず西1区について重機による表土剥ぎに続き2月25日から作業員を入れて遺構検出作業を行ない、確認された遺構から順次掘り下げ、精査した。そして、全景写真・個別遺構写真の撮影、実測等の作業を行った。続いて西2区について3月4日から同様の作業を実施し、3月17日現地での作業を終了した。

引き続き、飯田市考古資料館において、現地で記録された図面・写真類の基礎的な整理等を行った。

平成15年度は出土遺物の水洗・注記・接合・復元作業、遺物の実測・拓本とり、遺構図等の作成・トレース作業、写真類の整理、版組み等整理作業を行い、報告書作成作業にあたった。なお、遺物の写真撮影については西大寺フォトに委託実施した。

第3節 調査組織

(1)調査団

調査主体者	飯田市教育委員会 教育長 富田泰啓（平成11年12月～）
調査担当者	馬場保之・伊藤尚志
調査員	佐々木嘉和・渋谷恵美子・吉川金利・坂井勇雄・羽生俊郎

作業員 新井ゆり子・伊藤孝人・伊東裕子・太田沢男・金井照子・唐沢古千代・北原 裕
木下早苗・木下玲子・熊崎三代吉・小池千津子・小島康夫・小平まなみ
小林千枝・佐々木一平・佐藤知代子・代田和登・杉山春樹・瀬古郁保・竹本常子
橋 千賀子・中田 恵・中平けい子・中村地香子・服部光男・林ひとみ
原 昭子・橋本直子・福沢育子・福沢トシ子・古林登志子・牧内八代・松井明治
松下成司・松下省三・松下博子・三浦厚子・三浦照夫・宮内真理子・森藤美知子
森山律子・柳沢謙二・吉川悦子・吉川紀美子

(2)指導

長野県教育委員会文化財・生涯学習課
財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

(3)事務局 飯田市教育委員会

久保田裕久 (教育次長、～平成15年3月)
尾曾幹男 (“ ”、平成15年4月～)
中島 修 (生涯学習課長、～平成15年3月)
小林正春 (“ ”、平成15年4月～)
 “ (生涯学習課文化財保護係長、～平成15年3月)
吉川 豊 (“ ”、平成15年4月～)
馬場保之 (“ ” 文化財保護係)
渋谷恵美子 (“ ”)
吉川金利 (“ ”)
伊藤尚志 (“ ”、～平成15年9月)
坂井勇雄 (“ ”、～平成15年3月)
羽生俊郎 (“ ”)
佐々木行博 (“ ” 文化係、平成15年4月～6月)
 “ (“ ” 文化財保護係、平成15年7月～)
伊藤昌治 (学校教育課長、～平成15年3月)
高田 清 (“ ” 総務係長、～平成15年3月)
宮田和久 (“ ” 総務係、～平成15年3月)

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 自然環境

飯田市本町は飯田市街地の一画に位置する。

飯田市は伊那山脈と木曾山脈にはさまれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。天竜川による典型的な河岸段丘が見られるとともに、山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴い盆地・大きな段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。

本書に関連する飯田市街地が立地する場所は、南を飯田松川により、また北側を野底川により区切られた段丘上に立地する。この段丘上には、風越山麓から扇状地が発達し、東端の段丘端部（標高500m）から風越山麓（標高600m）までの比高差100mの間が緩やかな傾斜で一連の面となっている。

地形・地質の概観は、『伝馬町遺跡』（下伊那教育会他 1988）によると、

「段丘は2つの礫層と、最上段に重なる火山灰層からできている。最上部の火山灰層は飯田城二之丸跡で約3mの厚さを持つ。火山灰の給源は御岳火山で、その新时期テフラ層を主体にしたものであり、約2万年前から4万年前の地層である。

火山灰層の下にある礫層が段丘礫層である。段丘礫層は花崗岩礫を主体とする礫層で、飯田松川または野底川によって運搬・堆積した礫層である。愛宕神社では3～4mの厚さを持ち、飯田城二之丸では4～5mの厚さを持つ。礫は白く新鮮で、風化が進んでいないので、崖上に突出した地層をつくっている。礫の大きさは20～30cm大を主とし、ときには1.5m大の巨礫も含んでいる。礫の間は粗い花崗岩質の砂によって充填されている。この礫は支流に古い扇状地を浸食していくときの礫層で、飯田市街地の開析段丘をつくったときの地層である。

飯田市街地の段丘の主体を占める礫層は段丘礫層の下にみられる。両者は不整合関係である。下位の礫層は“伊那層群”の一員で、その最上部にある“柳沢礫層”相当層である。古くから、通称『伊那層』と呼ばれている。伊那層は愛宕神社で30m余、飯田城址で40m余が露出しているものの、下限は不明であるから、飯田市付近では数10mから100mの厚さを有すると推定される。この礫層は東端の低地部でもボーリングによって数m下に存在し、松川を越えた一色・名古屋段丘に連続している。つまり10数万年前より以前の中期更新世までは、飯田市街地から一色・名古屋まで一続きの扇状地が広く盆地を埋積していたのである。そのときの扇状地は天竜川に沿って、主として天竜川の堆積による礫層が広く分布していた。

伊那層は茶褐色を示し、花崗岩礫やホルンフェルス礫が全くざり状態で風化している。チャート礫のみが堅いままに残っている。礫種は天竜川の河床礫と同じようで、赤石山地から運ばれてきた緑色岩類やチャートを含んだり、諏訪方面から供給された安山岩礫が含まれている。礫は数cm大のものを主体とし、わずかに10cmから10数cmのものを含んでいる。少ないが薄い砂層もはさまれている。

飯田市街地の段丘は、“伊那層”によって構成されている。しかし、その礫層は段丘をつくったときの礫層でなく、段丘時代より一時代前の大扇状地時代のものである。伊那谷が段丘時代にはいと、松川や野底川が扇状地を浸食して扇状地開析段丘をつくってきた。川沿いで深く掘りこみ、扇状地は分断



1. 飯田城下町遺跡 2. 飯田城跡 3. 権現堂前(湯渡)遺跡 4. 正永寺原遺跡 5. 押洞遺跡
6. 大門町遺跡 7. さつみ遺跡 8. 羽場曙遺跡 9. 古屋垣外遺跡 10. 丸山遺跡 11. 方角東遺跡
12. 木戸脇古墳 13. 杵が塚古墳 14. 三壺沢遺跡 15. 上の金谷遺跡 16. 小垣外遺跡 17. 八幡面遺跡
18. 中村中平遺跡 19. 中島平遺跡 20. 六反田遺跡 21. 酒屋前遺跡 22. 公文所前遺跡 23. 殿原遺跡
24. 中川遺跡 25. 三日市場大原遺跡 26. 愛宕城跡 27. 城山城跡 28. 虚空蔵岩跡 29. 伝馬町
30. 風越窯跡

挿図1 調査遺跡および周辺遺跡位置図

され、扇状地の上も削りこまれて何段もの段差をもつ複雑な段丘地形が形成されたのである。」

こうした地形の中で、飯田城下町遺跡は、段丘端部に築城された飯田城の西側前面、すなわち扇状地の末端付近に位置する。

第2節 歴史環境

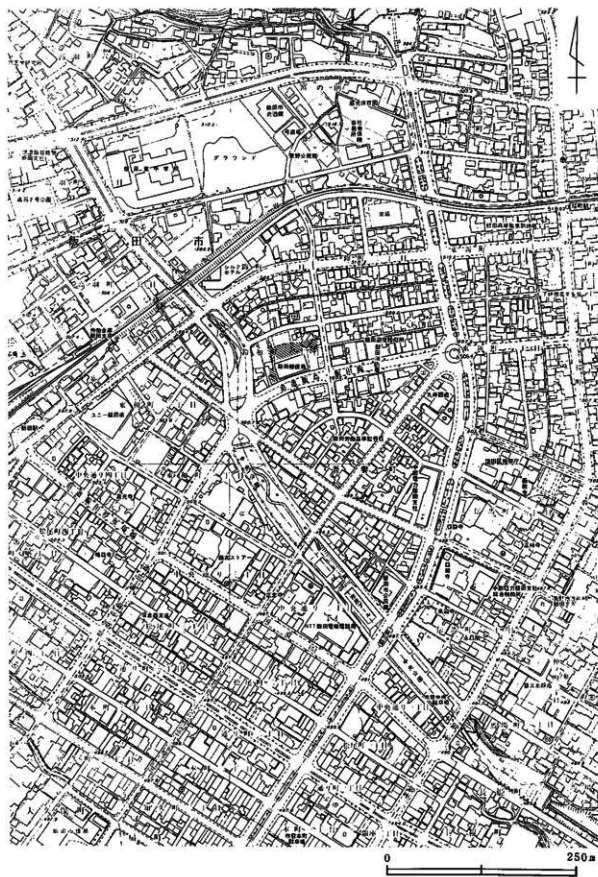
飯伊地方唯一の近世都市であるという点が、最も本遺跡を特徴づけるものであるが、城下町から引き続く市街地化の過程で、これに先立つ時代の様相が不明瞭になったということもまた、本遺跡の大きな特徴といえる。これまで調査地点周辺では、飯田市美術館建設に先立つ飯田城跡発掘調査以外具体的な調査はなく、断片的な知見が得られている程度であるが、周辺地区を含めた考古学的事実から、本遺跡周辺・旧市地区の歴史環境を通観する。

旧石器時代については、市内では石子原遺跡、竹佐中原遺跡の調査以外に特筆されるものはなく、この時代の様相を詳述できる材料がないのが現状である。本地区でも、美術館建設に先立つ発掘調査で細石刃核が出土したのみである。

縄文時代早期では湯渡（権現堂前）遺跡・正永寺原遺跡・押洞遺跡等で押型文土器の破片が見つかっている（八幡 1972）。中期になると正永寺原遺跡・権現堂前遺跡・押洞遺跡・大門町遺跡（飯田高校考古学研究会 1975）・箕瀬遺跡（飯田市教委 2002a）・飯田城下町遺跡と山麓から台地先端にいたる広範な地域に遺跡が分布するようになり、遺物も多く見られるようになる。

続く、水稲栽培を経済基盤とする弥生文化の下伊那への波及は縄文時代晩期終末のことであり、美濃・尾張・三河方面から東漸したものと考えられている。旧市内の代表的遺跡として、権現堂前遺跡・さつみ遺跡（長野県教委 1971）、羽場曙遺跡、正永寺原遺跡、古屋垣外遺跡（同前）・丸山遺跡（飯田市教委 1988a）等があり、後期の遺跡が多く見られる。高燥な台地上に生産基盤を求めた該期各地区に共通する現象であり、具体的には人口増と生産手段の発達を背景と考えられる。方角東遺跡・羽場曙遺跡では、竪穴住居址・方形周溝墓等が調査され、散在的な集落景観が把握されている（同前 2003b）。こうした状況は、他地区の高位段丘上に立地する遺跡と共通しており、風越山の裾部や扇状地扇端部付近で発達する湧水や、小河川沿いでの水田経営が随所にあったことが予想される。

古墳時代にはこの時代の最も特徴的な事象として古墳の築造があり、上飯田地区内にも数基の古墳が存在したことが伝えられているが、現在は市街地化の進行により残存するものは木戸脇古墳・杵が塚古墳のみである。また、寛政年間に松平楽翁が著した『集古十種』銅器一部の古鏡図によって本遺跡内にも古墳があったことが知られる（下伊那誌編纂会 1955）。該期の集落は丸山遺跡で調査されており、相当規模の集落の存在が考えられるが、なお断片的に把握されているにすぎない。同様な地形を呈する伊賀良地区の場合、該期の集落遺跡として、富の平遺跡（飯田市教委 1996a）・三壺湖遺跡（長野県教委 1973）・上の金谷遺跡（同前）・小垣外遺跡（飯田市教委 1988b）・八幡面遺跡（同前）・中村中平遺跡（飯田市教委 1994）・中島平遺跡（同前 1977）が調査されているが、前時代よりも集落数が激減することが指摘されているし、こうした状況は上郷・座光寺地区の上段でも概ね当てはまる。旧市地区においても同様のことが想定できよう。



挿図2 調査地点位置図

続く奈良・平安時代の状況は全く不明であるが、前述の伊賀良地区では三壺測遺跡・上の金谷遺跡・小垣外遺跡・八幡面遺跡といった古墳時代の集落が存続する一方で、平安時代には六反田遺跡（長野県教委 同前）・酒屋前遺跡（飯田市教委 1983）・公文所前遺跡（同前 1991）といった集落が登場してくるなど、高位段丘上の開発が進展したことが考えられる。この高位段丘上の諸開発を裏付けるものとして、殿原遺跡溝址3（同前 1987・1992）・中川遺跡溝址3（同前 1996b）・三日市場大原遺跡や方角東遺跡等で確認された溝址が挙げられよう。

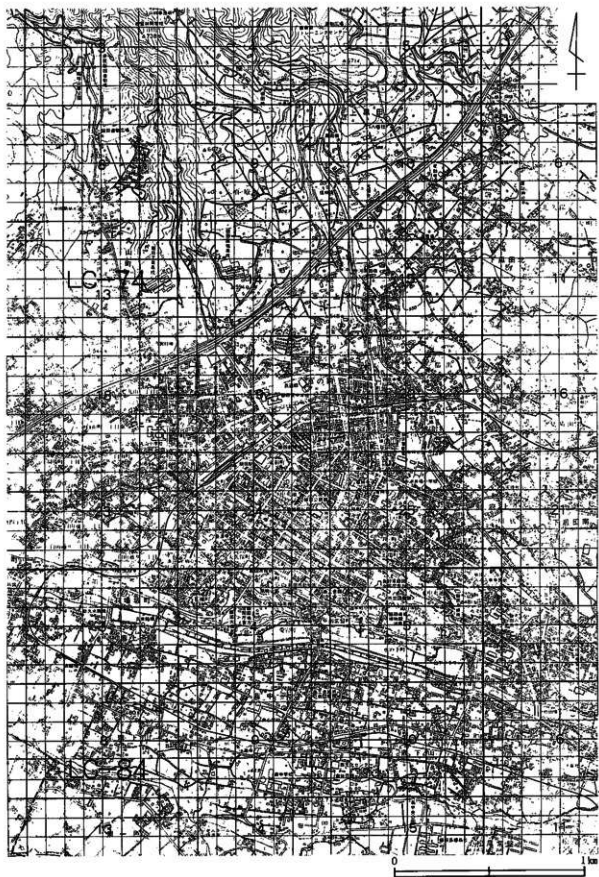
中世に至って、それぞれの詳細な築城時期は不明ではあるが、飯田城・愛宕城・上飯田の城山・虚空蔵山頂等に山城が造られ、一定の集団による活動があったことを推し計ることができる。未報告であるが、飯田城跡の発掘調査では、近世城郭に先立つ遺構として、空堀2本と小規模な方形の竪穴が約60軒検出されている。

近世の考古学的成果として、飯田城跡二之丸発掘・本丸発掘、伝馬町・本町の発掘、風越窯址の調査がある。飯田城跡二之丸発掘・本丸発掘の大半についてはいずれも未報告であり、二之丸跡では、大通り跡・屋敷の礎石・柱穴・御用水・井戸・池・鍛冶施設・貯蔵施設・ゴミ捨ての大穴等の遺構、陶磁器類・土師質皿・焼塩壺・硯・石臼・煙管・簪・刀・漆器椀・焼物の玩具・碁石等の生活雑器の他、魚骨やサザエの貝殻等が見つかっている。また、住宅建設に先立つ調査では、空堀の出丸側石垣が把握され、匣鉢数点が出土したことから付近に飯田藩による官窯の存在した可能性が指摘されている（飯田市教委 1991b）。本丸跡では、池の一部が調査されている。伝馬町の発掘では、武家屋敷の主屋の一面が調査され、3期の遺構の変遷が把握されている（下伊那教育会 同前）。さらに本町の調査では、上級商家の一面が調査され、火災や水害の歴史、家並や町屋の構造、町人の生活等の一端が明らかにされている（飯田市教委 2001）。

風越窯址では2基の窯跡が調査・確認されている。この窯は嘉永年間に美濃から陶工を招いて磁器を焼かせたもので、飯田藩主堀親義のお庭焼・風越焼として知られている。わずか5年で廃止となったが、その後も雑器を焼いたと伝えられており、調査によって鉢・生焼の播鉢の破片などが検出されてそれを裏付けた。風越窯は連房式登窯の本業窯で、30度を越す急斜面を利用して構築されている。遺物は完形品こそないが、染付けの磁器・青磁・白磁があり、優品が焼かれたことを示す好資料を得ている（飯田市教委 1979）。

飯田城の建築・遺構で現在残っているものは少なく、安土桃山時代の様式を伝える松尾木下家の門、上郷経蔵寺の門・市立飯田中央図書館横の赤門、水の手から追手町へ登る坂の石垣外堀の一部、侍屋敷（佐々木 1995）といった程度である。

今次調査地点は惣堀の外側に位置するが、近世後期には町屋が拡大し城下町の一画に取り込まれた地域で、近世後期以降の家並や生活の様子、あるいは市街地化する以前の各時代の様子を明らかにすると見える。



挿図3 基準メッシュ図区画調査位置

第三章 調査結果

第1節 調査区の設定 (挿図3)

調査区の設定は、飯田市埋蔵文化財基準メッシュ図に基づいて、株式会社ジャステックに委託実施した(設定方法については、飯田市教育委員会 2003a 『辻前遺跡』他参照)。今次調査地点は、LC-74 19-47内に位置する。

第2節 微地形

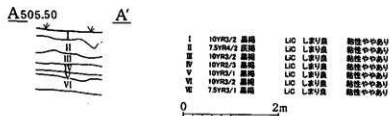
調査区の南西側には谷川があり、調査区の北半は平坦、南半は緩傾斜面となっている。谷川に面した南区、西1・2区では谷川の氾濫に起因した自然流路が少なくとも5条確認されている。これらの自然流路は縄文時代後期の土坑を切り、近世後期の暗渠に切られることから、縄文時代後期以降近世前期までに比定される。谷川や野底川支流が何度か流れを変えたことに起因すると考えられる。

第3節 基本層序(挿図4)

I層は造成土。V層上面は不連続であり、IV・V層間に間隙か堆積環境の大きな変化が考えられる。SB03上部では、V層に対比されるIV層上面に洪水起源の砂層があり、この不連続を裏付ける。

第4節 縄文時代

該期の遺構は竪穴住居址・竪穴・土坑が調査されている。なお、時間軸については『長野県史』(長野県史刊行会 1988)に拠った。



挿図4 基本層序

(1) 竪穴住居址

①SB03 (挿図5)

〔検出位置〕AU04付近 〔規模〕 $- \times - m$ 、深さ43cm 〔床面積〕 $- m^2$ 〔形態〕不明 〔主軸〕不明 〔重複〕なし 〔調査所見〕埋土が地山と異なり明確に把握された。大部分が調査区外にかかり詳細は不明である。当初断面観察中に近世後期の磁器片が出土したことから地下室と考えた。しかし、壁直下ではないが僅かにくぼむ部分があって周溝と考えられること、壁がほぼ垂直に立ち上がることから、住居址と判断した。基本層序V層に対比されるIV層下面から掘り込まれる〔埋土〕いわゆる「レンズ状」に堆積しており、自然埋没と考えられる 〔壁〕前述 〔床〕明瞭であるが、壁際のため硬い部分は把握できず。断面からは貼り床されていないと考えられる 〔柱穴〕不明 〔周溝〕前述のとおりであるが、図化を怠る 〔炉〕把握できず 〔付属施設〕不明 〔出土遺物〕全般に少なく、破片が主体である。早期後葉と考えられる遺物もあるが、中期後葉が多い 〔時期〕中期後葉に比定される。

②SB04 (挿図5、第1図1～9、第8図1～4)

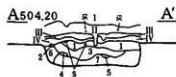
〔検出位置〕BB41付近 〔規模〕 $- \times - m$ 、深さ9cm 〔床面積〕 $- m^2$ 〔形態〕不整円形を呈すると考えられる 〔主軸〕不明 〔重複〕なし 〔調査所見〕調査区外にかかり、また一部分は電柱のために調査できず。検出面から床面まで浅い。柱穴の状況から建て替えられた可能性がある 〔埋土〕単層である 〔壁〕上記検出状況のため、立ち上がりは不明 〔床〕床面は硬いが、貼り床はない。床面焼土・炭化物等はない 〔柱穴〕壁際に配されるが、配列は不明 〔周溝〕ほぼ全周すると考えられる。幅12～31cm、深さ6～11cm 〔炉〕不明 〔付属施設〕不明 〔出土遺物〕出土量は僅少。上層に多く、壁際より中央に近い部分から出土。破片が主体で投棄されたと考えられる 〔時期〕中期中葉末～後葉の土器が出土しているが、詳細時期は不明である。

③SB05 (挿図5、第1図10・11、第8図5～8)

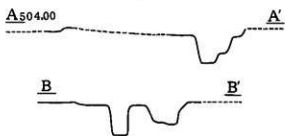
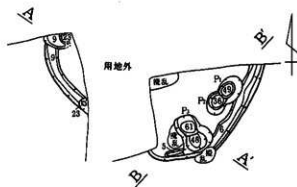
〔検出位置〕AY45付近 〔規模〕 $- \times - m$ 、深さ11cm 〔床面積〕 $- m^2$ 〔形態〕不明 〔主軸〕不明 〔重複〕SB08・SK62に切られる 〔調査所見〕第2期の調査の際に調査区を十分確保できず、残りは把握できず。耕作時の農業用機械による掘削がおよんでおり、遺存状況は著しく悪い。貯蔵穴が集中して調査されたことから、断面等精査して、竪穴住居址と判断した 〔埋土〕単層で、自然埋没と考えられる 〔壁〕遺存状態は悪いが、やや緩やかに立ち上がると考えられる 〔床〕P2・P3の南側が部分的に硬い 〔柱穴〕P5が主柱穴かと考えられる 〔周溝〕なし 〔炉〕不明。調査区外ないしSB08に壊される 〔付属施設〕P2～P4・P6は貯蔵穴で、P3はフラスコ状を呈する 〔出土遺物〕少なく、破片が主体 〔時期〕中期後葉に比定される。

④SB06 (挿図5、第1図12～第2図4、第10図64～66)

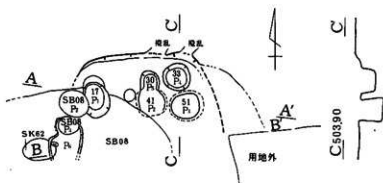
〔検出位置〕BC46付近 〔規模〕 $- \times - m$ 、深さ37cm 〔床面積〕 $- m^2$ 〔形態〕不明 〔主軸〕不明 〔重複〕SB09を切る 〔調査所見〕大部分が調査区外にかかる。地山上面を掘り込んでおり、明瞭に把握された。SB09との新旧関係は平面および断面での把握 〔埋土〕断面観察の結果、自然埋没である 〔壁〕やや急な立ち上りを示す 〔床〕中央付近がやや低く、その東側は硬く締まる。貼り



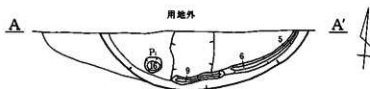
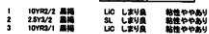
SB03



SB04



SB05



SB06



挿図5 SB03~06

床はない。床面に焼土等なし [柱穴] 1基 (P1) 検出したがしっかりした掘り方ではない [周溝] 部分的に巡らされると考えられる。幅10~20cm、深さ3~10cm [炉] 区外にかかり不明 [付属施設] 不明 [出土遺物] 出土量は少ない。壁際からの出土は少ない。また、検出面から約20cmの深さまでは多いが、床面付近は少ない [時期] 中期後葉I期に比定される。

⑤SB07 (挿図6、第2図5~第3図14、第8図9~15、第10図67)

[検出位置] AX42付近 [規模] $\times\times$ -m、深さ17cm [床面積] $-m^2$ [形態] 方形に近い不整形を呈すると考えられる [主軸] 不明 [重複] SB08を切る [調査所見] 南側は削平・攪乱により把握できず [埋土] 埋土中に礫等は含まれず [壁] やや急に立ち上がる [床] 床面は全体的に硬いが、貼り床はない [柱穴] 主P1・P2を把握したが、柱痕は不明 [周溝] 部分的に途切れるが、ほぼ全周すると考えられる。幅15~20cm、深さ6~12cm [炉] 炉石が抜き取られている。炉石の掘え方痕跡は把握できなかったが、住居の形態からいわゆる「掘炬燵」形の炉と考えられる [付属施設] なし [出土遺物] 遺物量は少ない。西側を中心に検出面から床面まで出土したが、上層が多い。比較的大きな破片が多い。投棄されたと考えられる。縄文時代中期後葉が主体であるが、僅かに後期前葉が混じる。P1より石織・石錘出土 [時期] 中期後葉IV期に比定される。

⑥SB08 (挿図6、第3図15~19、第8図16~18)

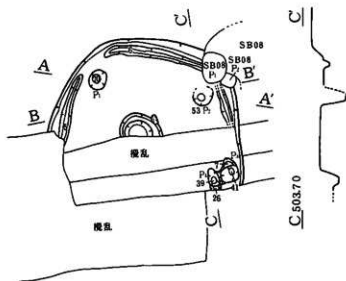
[検出位置] AX44付近 [規模] $\times\times$ -m、深さ7cm [床面積] $-m^2$ [形態] 不整形を呈すると考えられる [主軸] 不明 [重複] SB05を切り、SB07・SK62に切られる [調査所見] 検出面から浅く、プランは不明瞭。周溝が二重にあり、柱穴も掘り直されていることから、拡張住居と考えられる [埋土] 自然埋没と考えられる [壁] やや緩やかに立ち上がる [床] 炉址の東側床面上に礫が3個まとまる [柱穴] 支柱穴6本が把握され、配置から新旧2時期がある。P3~P5が旧段階の支柱穴、P1・P2・P6が新段階の支柱穴と考えられる [周溝] 内側が旧段階、外側が新段階と考えられる。旧段階は幅15~20cm・深さ5cm程度、新段階は幅15~25cm・深さ2~5cmであり、北西側は新旧段階の判別が難しく幅40cm程度の部分がある [炉] 楕円形に炉石が配される石囲い炉 [付属施設] なし [出土遺物] 遺物量は少ないが、西側を中心にほぼ床面直上から出土 [時期] 中期後葉I期に比定される。

⑦SB09 (挿図7)

[検出位置] BC45付近 [規模] $\times\times$ -m、深さ12cm [床面積] $-m^2$ [形態] 不明 [主軸] 不明 [重複] SB06に切られる [調査所見] 大部分が調査区外にかかる。地山上面を掘り込む [埋土] 自然埋没と考えられる [壁] ほぼ垂直に立ち上がる [床] 明確で硬い床面が検出された。貼り床なし [柱穴] 把握できず [周溝] 部分的に巡らされると考えられる。幅10~15cm、深さ1~9cm [炉] 不明 [付属施設] 不明 [出土遺物] 出土遺物はほとんどない [時期] 詳細時期不明。

⑧SB10 (挿図7、第8図19)

[検出位置] AF28付近 [規模] $\times\times$ -m、深さ6cm [床面積] $-m^2$ [形態] 不明 [主軸] 不



A503.70 A'



SB07

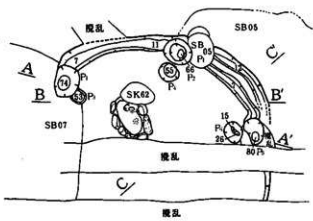
- | | | |
|---|---------|-----|
| 1 | SPA/1 | 遺構残 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒土 |
| 3 | 2.5Y3/1 | 黒土 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒土 |
| | 10YR3/2 | 黒土 |

0 2m

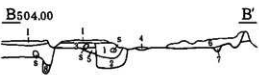
- | | | | |
|---|----|------|--------|
| 1 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 2 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 3 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 4 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |

- | | | | |
|---|---------|----|--------|
| 1 | 2.5Y3/1 | 黒土 | 胎枝中中赤り |
| 2 | 10YR3/2 | 黒土 | 胎枝中中赤り |
| 3 | 10YR2/1 | 黒土 | 胎枝中中赤り |

0 1m



A503.70 A'



SB08

- | | | |
|---|----------|-----|
| 1 | SPA/1 | 遺構残 |
| 2 | 10YR3/2 | 黒土 |
| 3 | 10YR4/2 | 灰黄褐 |
| 4 | 7.5YR2/1 | 赤 |
| 5 | 10YR3/2 | 黒土 |
| 6 | 2.5Y3/2 | 黒土 |
| 7 | 10YR2/2 | 黒土 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒土 |

0 2m

- | | | | |
|---|----|------|--------|
| 1 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 2 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 3 | SL | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 4 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 5 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 6 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 7 | LC | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |
| 8 | SL | L赤り瓦 | 胎枝中中赤り |

- | | | | |
|---|---------|----|--------|
| 1 | 2.5Y3/2 | 黒土 | 胎枝中中赤り |
| 2 | 10YR3/1 | 黒土 | 胎枝中中赤り |
| 3 | 10YR2/2 | 黒土 | 胎枝中中赤り |

0 1m

挿図6 SB07・08

明 [重複] なし [調査所見] 東側は調査区外にかかり、北側を攪乱により壊される。検出面まで下げたところ、ほぼ床面で壁は確認できず [埋土] 単層 [壁] 不明 [床] 平坦ではない。硬い部分は把握できず [柱穴] P 2 が主柱穴か [周溝] 一部が把握された。幅15~25cm、深さ30cm [炉] 不明 [付属施設] 不明 [出土遺物] 遺物量少量 [時期] 詳細時期不明であるが、他の住居址群と同時期の中期後葉の住居址と考えられる。

⑨SB11 (挿図7)

[検出位置] A J 23付近 [規模] -×-m、深さ7cm [床面積] -m² [形態] 不明 [主軸] 不明 [重複] なし [調査所見] 調査区外にかかる。検出面でほぼ床面で、プランは把握できず。柱穴・周溝の位置から推定 [埋土] 確認せず [壁] 不明 [床] 硬い部分は把握できず [柱穴] 本址に伴うかどうかの判断がつかず、重複するものを図示した。このうち深さが40cmを超えるものは本址の柱穴の可能性が高い。規模の小さいものも多く、中・近世のものもあると考えられる [周溝] 一部を把握。幅約20cm、深さ30~33cm [炉] 北西隅に炉と考えられる部分を検出 [付属施設] 不明 [出土遺物] 炉付近から出土があるが、出土量は僅少 [時期] 中期後葉であるが、詳細時期不明。

⑩SB12 (挿図7、第3図20~第4図19、第8図20~第9図26)

[検出位置] B B 00付近 [規模] 新段階3.9×3.2m、深さ37cm [床面積] 古段階(5.6)m²、新段階(9.6)m² [形態] 不整楕円形を呈する [主軸] N51° E [重複] SB14を切る [調査所見] 基本層序のIV層下面から掘り込まれる。当初SB14を含め1棟と考え掘り下げたが、床面や断面の状況から2棟と判明。当初の出土遺物はSB12・SB14として取り上げたが、大部分はSB12からの出土である。部分的に二重に周溝が巡らされることから建て替えが行われた可能性が考えられる。しかし、主柱穴では新旧2時期と判断できるものはない [埋土] いわゆる「レンズ状」に堆積 [壁] 断面の観察結果ではほぼ垂直に立ち上がる [床] 炉址の南・西側が部分的に硬く締まる。貼り床なし [柱穴] 4本主柱と考えられるが、うち1本はSB14貯蔵穴と重複して検出できず。P1・P2・P4が主柱穴 [周溝] 内側が旧段階、外側が新段階と考えられる。旧段階は幅12~25cm、深さ14~34cmで部分的に途切れる。新段階は幅15~30cm、深さ6~13cmで南西側は検出できず [炉] 石囲い炉で、炉石はよく焼けボロボロになっている。10~30cm大の円・角礫を用い、上面が平坦な礫を据えている。炉内北東側に焼土が確認された [付属施設] なし [出土遺物] 出土量やや少ない。住居の中央付近、床より高いレベルからの出土が多く、投棄と考えられる。曾利系土器出土 [時期] 中期後葉I期と考えられる。

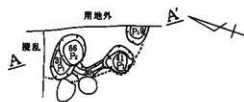
⑪SB14 (挿図8、第3図20~第4図2・20、第9図27~32)

[検出位置] B C 01付近 [規模] 6.0×4.6m、深さ25cm [床面積] 17.8m² [形態] 不整楕円形を呈すると考えられる [主軸] N10° E [重複] SB12に切られる [調査所見] 本址の南壁は、平面形からみるとSB12のプランのようにみえるが、断面および南西側周溝の連続性から判断した。P8はSB12炉址に近接しすぎており、SB12の旧段階の周溝と重複することから、SB14の施設と判断した。同様にP2・P7もSB14に付属するものと判断 [埋土] 自然埋没と考えられる [壁] 緩やかに立ち上がる [床] 主柱穴の内側、中央部分が硬く締まる [柱穴] P1~P6の6本主柱と考えられる

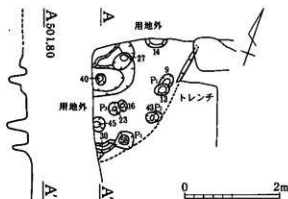


- 1 5YR3/1 黒褐色
- 2 10YR3/2 黒褐色
- 3 10YR3/4 黒褐色

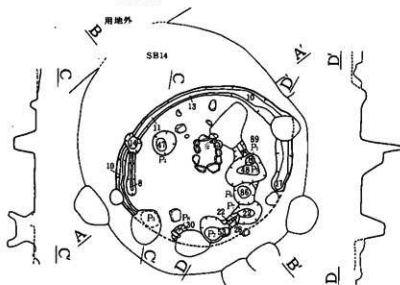
SB09



SB10

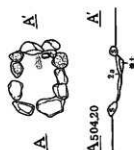


SB11



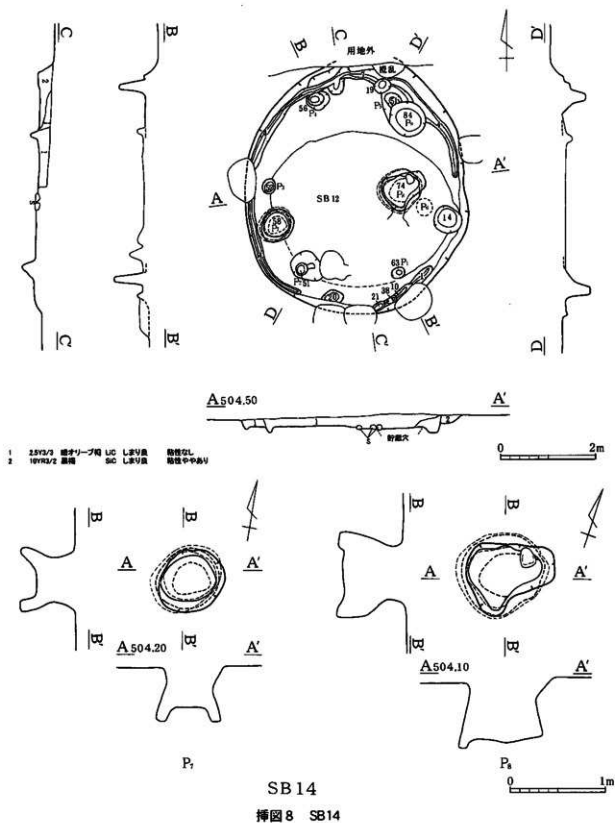
- 1 10YR3/1 黒褐色
- 2a 2.5Y2/2 黒褐色
- 2b 10YR3/2 黒褐色
- LC L.赤り土 粘性中やあり
- UC L.赤り土 粘性中やあり
- UC L.赤り土 粘性中やあり

SB12



挿図 7 SB09~12

が、P 6 は図面を欠く [周溝] はほぼ全周する。幅10~30cm、深さ2~8 cm [炉] SB12炉よりやや北側にあつたと考えられるが、壊され遺存せず [付属施設] 貯蔵穴はP 7~P 9の3基が調査された。P 7は底の壁際に周溝が巡らされ、フラスコ状を呈する。P 8も同様の形態をとり、周溝から炭が出土した [出土遺物] 出土量は僅少である。曾利系土器出土 [時期] 中期中葉末~後葉1期に比定される。



⑫SB15 (押図9、第4図21～第6図13、第9図33～40)

[検出位置] AT36付近 [規模] 6.1×(5.7)m、深さ12cm [床面積] 25.2m² [形態] 方形に近い不整形円形を呈する [主軸] N16° W [重複] SM03に切られる [調査所見] 西側では検出面が下がりすぎ、壁の一部をとぼしてしまった [埋土] 遺物の出土状況から人為的に埋められたと考えられる [壁] ほぼ垂直に立ち上がる [床] 明確で、炉址・P8・P11にはさまれた部分は硬く締まる。床面焼土等なし [柱穴] 主柱穴はP2・P8・P11を把握。4本主柱穴と考えられるが、うち1本は攪乱に壊され把握できず。柱痕は確認できず。補助柱穴4基 [周溝] 部分的にあり。幅25～38cm、深さ約3cm [炉] 炉石が抜き取られている。掘り方の形状からいわゆる「掘炬燵」形の炉と考えられる。炉内に石皿破片が投棄され、土器破片は内面を上にして大きな破片が多い [付属施設] P5・P6は入り口施設 [出土遺物] 硬い床面が検出された部分を中心に、中層に遺物出土が多く、また破片が多い。礫・炭化物等は伴わず、投棄されたと考えられる。床面遺物は炉址の東側が多く、破片が多い。P6から立位の深鉢出土 [時期] 中期後葉Ⅲ期に比定される。

(2) 竪穴

土坑に比して規模が大きく、かつ竪穴住居址が備える施設が確認できず住居址と判断できなかったものを竪穴とした。遺物や埋土から縄文時代の遺構と考えられる。

①SB02 (押図9)

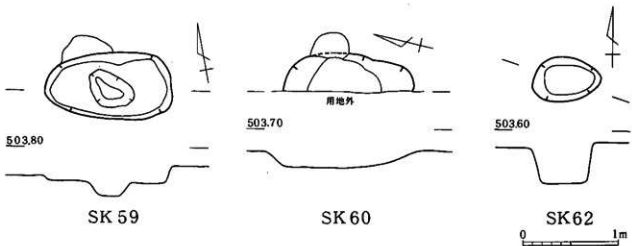
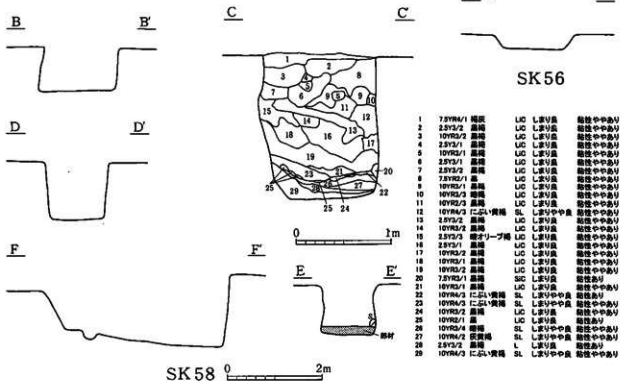
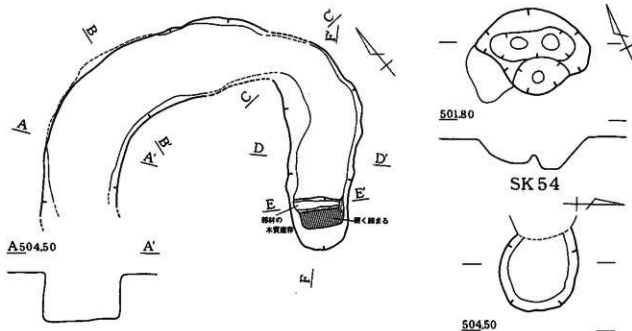
[検出位置] AU06付近 [規模] -×-m、深さ17cm [床面積] -m² [形態] 方ないし長方形を呈すると考えられる [主軸] N70° E [重複] なし [調査所見] 大部分が調査区外にかかる。底面は地山に含まれる花崗岩礫40～80cmが顔を出しており、住居址とは考えられない。基本層序Ⅵ層から掘り込まれる。焼土等なく、炉址の有無は不明 [埋土] 単層で、自然埋没と考えられる [壁] だらだらと掘りくぼむ [床] やや平坦であるが、硬い部分なし [出土遺物] 僅少で中期中葉末から後葉が主体 [時期] 中期中葉末から後葉と考えられる。

②SB13 (押図9)

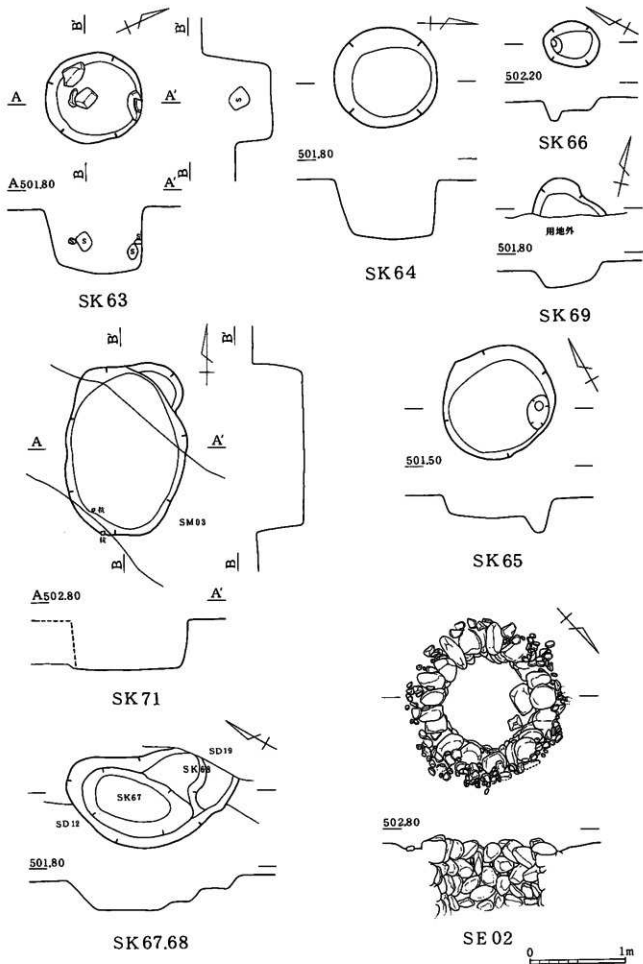
[検出位置] AY49付近 [規模] -×-m、深さ10cm [床面積] -m² [形態] 不明 [主軸] 不明 [重複] なし [調査所見] 検出面から浅く、あるいは自然の窪地の可能性もある [埋土] 自然埋没と考えられる [壁] 立ち上がりの状態は不明 [床] やや傾斜しており、硬い部分なし [出土遺物] なし [時期] 不明。

③SB17 (押図9、第6図14)

[検出位置] AY40付近 [規模] -×-m、深さ7cm [床面積] -m² [形態] 不明 [主軸] 不明 [重複] なし [調査所見] 攪乱および削平のため東側の一部を把握したにとどまる [埋土] 単層で自然埋没と考えられる [壁] 立ち上がりの状況は不明 [床] 削平された部分はもとより、硬い部分なし [柱穴] P1～P3を調査したが、浅くだらだらと掘り込んでおり、主柱穴と考えられるものなし [出土遺物] なし [時期] 不明。



挿図10 SK54・56・58~60・62



挿図11 SK63~69・71、SE02

④SB18 (挿図9、第6図15)

[検出位置] A Q29付近 [規模] $\times \times$ -m、深さ17cm [床面積] $-m^2$ [形態] 方形ないし長方形を呈すると考えられる [主軸] 北東辺の方向N26° W [重複] なし [調査所見] [埋土] 単層で自然埋没と考えられる [壁] やや急に立ち上がる [床] 硬く締まる [柱穴] 北隅が掘りくぼむ [出土遺物] 縄文時代中期の土器片が僅かに出土 [時期] 出土遺物から同時期の遺構と考えられるが、詳細時期不明である。

以下、特記されるもののみ記述する。

(3)土坑 (挿図10・11、第6図16~28、第9図41~44)

SK63は円形を呈しほぼ垂直に掘り込まれる土坑で、内部から台石 (第9図43) が底面より浮いた状態で出土した。SK64は一端がほぼ垂直に掘り込まれるが、他はやや緩やかとなる。SD12に切られる。SK65はやや浅く、一端に小ビットが掘り込まれるが、形態はSK63・SK64に類似する。いずれも縄文時代中期の土墳墓と考えられる。

(4)周辺柱穴 (挿図17~22、第7図1~4)

A D28 P 4 から、縄文時代早期の遺物として、1点のみであるが押型土器片が出土している。山形文が外面縦位密接・内面横位帯状施文されるもので、口唇部にも横位施文される。胎土に細かい雲母片が含まれる薄手の土器で、桶沢式に比定される。

(5)遺構外出土遺物 (第7図5~33、第10図56~63・70)

縄文時代中期後葉から後期にかけての遺物が出土している。

第5節 弥生時代

(1)竪穴住居址

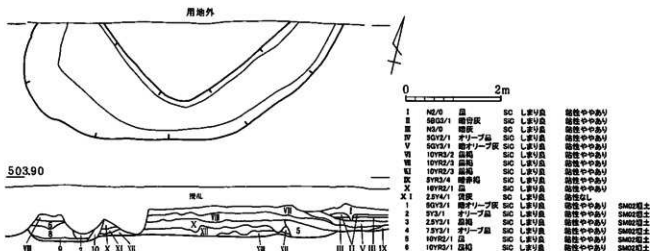
①SB16 (挿図9、第7図34~37)

[検出位置] B A34付近 [規模] $5.2 \times$ -m、深さ19cm [床面積] $-m^2$ [形態] 方形を呈すると考えられる [主軸] 南東壁の方向N51° E [重複] SM02と近接しており、切られるものと考えられる [調査所見] 埋土が地山と異なり明確に把握された。大部分が調査区外にかかる [埋土] 自然埋没である。礫・焼土・炭化物は含まれず [壁] 急に立ち上がる [床] 全体的に硬く締まる。貼床なし。床面に焼土等なし [柱穴] 主柱穴1基 (P1) を調査。柱痕が確認され、半截材が掘えられたと考えられる。P3は間仕切りか [周溝] なし [炉] 把握できず。調査区外と考えられる [付属施設] P2が入り口施設と考えられる [出土遺物] 極めて少なく、破片が主体である。壺・甕・高坏がある [時期] 弥生時代後期後半。

(2)方形周溝墓

①SM02 (挿図12)

[検出位置] A Y31付近 [重複] SB16を切ると考えられる [調査所見] 大部分が調査区外にかか



SM 02

挿図12 SM02

り、南隅部分が調査された [規模] 周溝内法-×-m、周溝外法-×-m [内法面積] -m²
 [形態] 方形を呈すると考えられる [主軸] 南東辺の方向N38° E [周溝] [規模] 幅80～210cm、
 深さ8～22cm、断面での観察結果は40cm [断面形] 逆台形 [土橋部] 不明 [埋土の状況] 自然埋
 没 [出土遺物] 混入の縄文土器のみ [埋葬施設] [有無] 不明 [その他] [墳丘] 断面で把握でき
 ず [外表施設] なし [付属施設] 不明 [時期] 詳細時期は不明であるが、SB16との新旧関係
 から弥生時代後期後半以降と考えられる。

② SM03 (挿図13、第7図38)

[検出位置] AV35付近 [重複] SB15を切り、SK71・SE02に切られる [調査所見] 掘り込み
 面より約25cm下がった地山上面で把握した [規模] 周溝内法9.8×9.4m、周溝外法12.2×12.2m
 [内法面積] 90.8m² [形態] 方形 [主軸] N57° W [周溝] [規模] 幅76～174cm、深さ13～59cm
 [断面形] 逆台形 [土橋部] 南東辺の南寄りに設けられる [埋土の状況] 自然埋没 [出土遺物]
 縦に櫛歯の羽状文が施される甕が僅かに含まれるが、後期の壺・甕が主体である [埋葬施設] [有
 無] 把握できず [その他] [墳丘] 不明 [外表施設] なし [付属施設] なし [時期] 弥生時代
 後期前半。

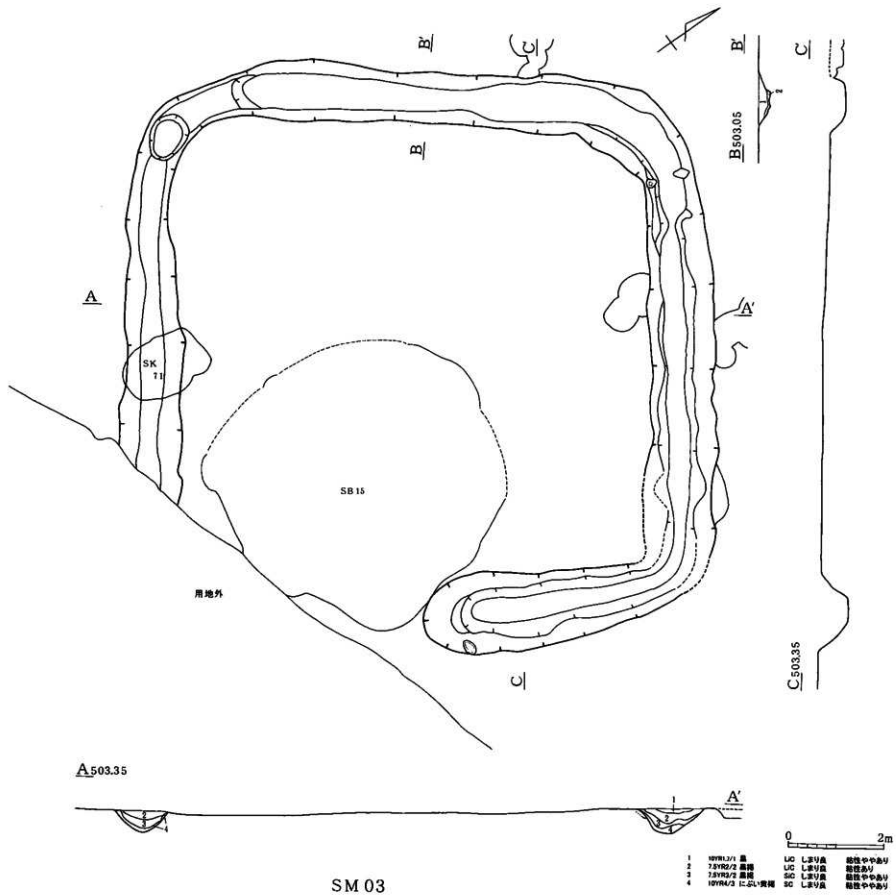
第6節 中世

(1) 溝址・溝状址

自然流路SD12・SD13・SD17～SD19のうち、SD12・SD13については一部掘り下げを行った。
 出土遺物からSD12は古墳時代以降、SD13は奈良時代以降に比定される。下限は重複関係から近世ま
 で下る可能性がある。SD17～SD19は平面確認のみで、具体的に時期の判る遺物は出土していない。
 いささか乱暴であるが、これらの自然流路の時期をひとまず中世を中心とする時期と捉えておきたい。

(2) 小柱穴

形態から本期に属するものがあると考えられるが、詳細は不明である。



挿図13 SM03

第7節 近世～近代

(1)地下室

S K 58は2箇所に屈曲があり、コの字状を呈する。南端底面が一段高く、埋められた材の木質部が遺存していた。材は端部を礎で押さえられ、図示した礎の上にはもうひとつ礎が載せられていた。この仕切り材と考えられる材の痕跡から北東に向かって、底面が低くなる。壁がほぼ垂直に立ち上がるが、北東辺の外側壁は上部が懸架した形となっており、この部分を中心に底面はやや高い。壁下には土留めのための杭等の痕跡はない。埋土はブロック状となっており、一気に埋め戻されたと考えられる。

S K 71（押図11）は壁際に土留め板を抑えるための杭がある。平面隅丸長方形を呈し、壁は垂直に立ち上がり、底面も平坦である。形状から地下室と考えられる。

(2)暗渠排水

S D 26は扁平礎を立て並べ、その上に扁平礎を架している。上部を5～10cm程度の礎が覆う。内部から磁器小瓶片（銷唐草文）と考えられる破片が出土しており、近世後期に比定される。S D 27はS D 26と同構造を有し、S D 26に接続する。接合部分でS D 27の蓋石の方向が変わることから、S D 26と同時ないしやや新しいと考えられる。S D 29は掘り方の幅がほぼ一定しており、扁平礎を立て並べ、その上に扁平礎を架し、さらに上部を細かい礎で覆う。扁平礎の組み方から近世後期の暗渠排水と考えられる。

(3)井戸

調査区内に3基の井戸が確認された。S E 02は上面からみると円形であるが、石積みは4面積みを基調としている。30～40cm大のやや扁平な野石が乱層積みされ、小礎が裏込めされる。作業中の安全を確保するため、70cm程度で掘削を中止し、底面まで完掘していない。S E 03・S E 04は縦に土管が埋設され、周囲は砂等で埋められており、時期が下るものと考え、確認にとどめた。

(4)溝址・溝状址

S D 21～S D 24は自然流路S D 12を切る。平行して走る状況から、水田に付随する小規模な水路と考えられる。また、S D 23はS D 25を切る。これらのS D群は出土遺物や重複関係から近世に比定され、下限は19世紀まで下ると考えられる。

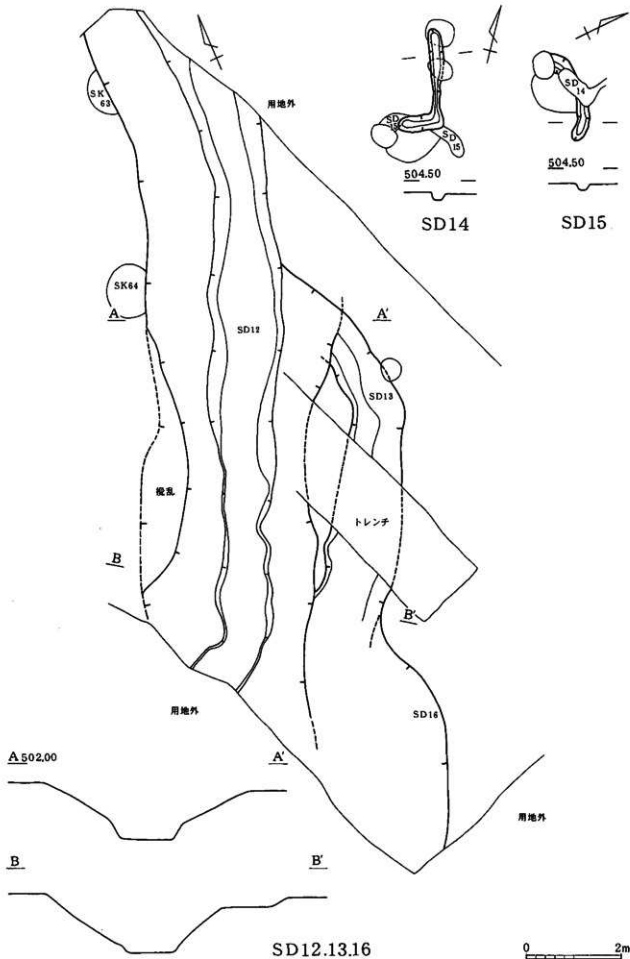
(5)小柱穴

形態や出土遺物から近世に比定されるものがあり、掘立柱建物址を構成するものと考えられるが、組み合うものは把握できなかった。

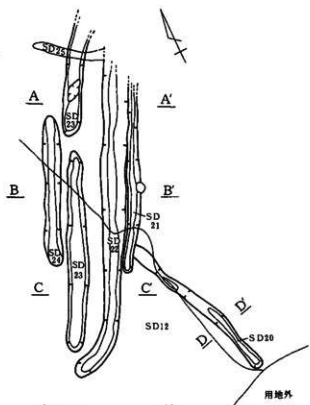
第8節 時期不明

(1)溝址・溝状址

S D 14は鉤の手状を呈し、形態が弥生時代の囲溝址に類似する。S D 15は住居址周溝のように弧状を呈する。



SD12.13.16
 挿図14 SD12~16



A502.20

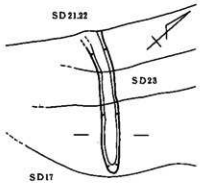
B

C

D

0 2m

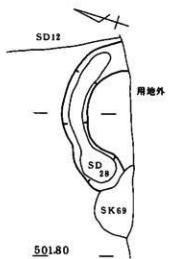
SD20~24



502.00

0 1m

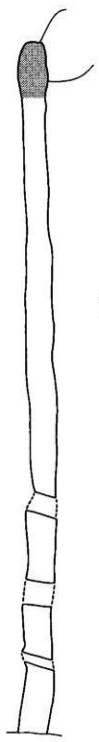
SD 25



501.80

0 1m

SD 28



0 2m

SD 29

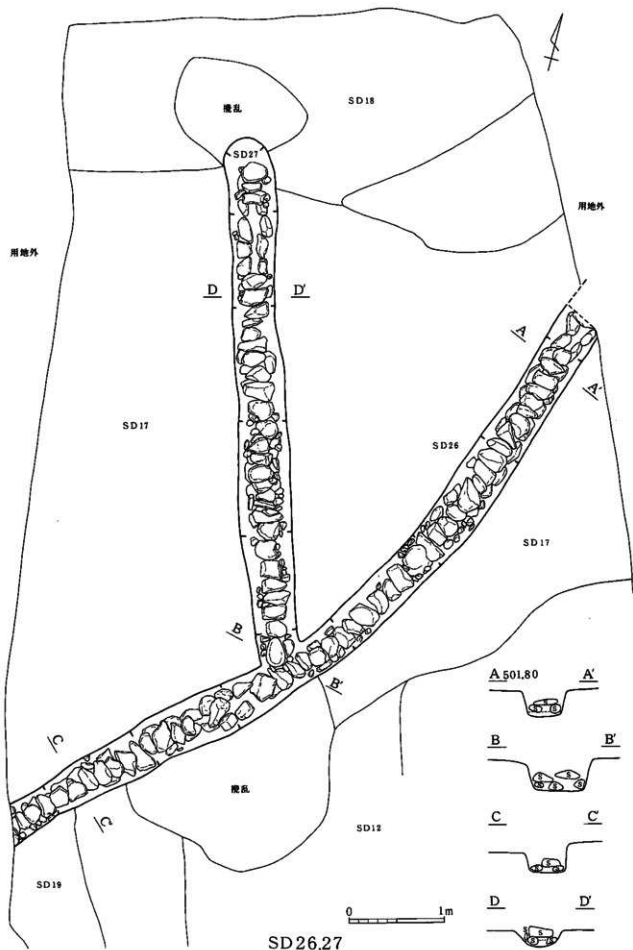


502.50

0 1m

スタリントン部分拡大

挿図15 SD20~25・28・29



SD26.27

挿圖16 SD26・27

用地外

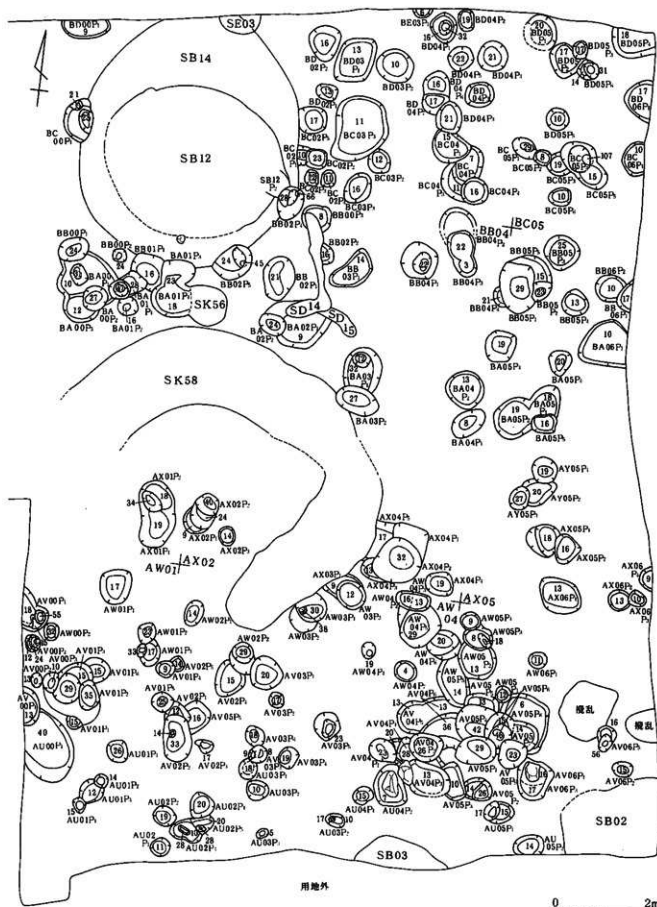


插图17 周边柱穴平面图(1)

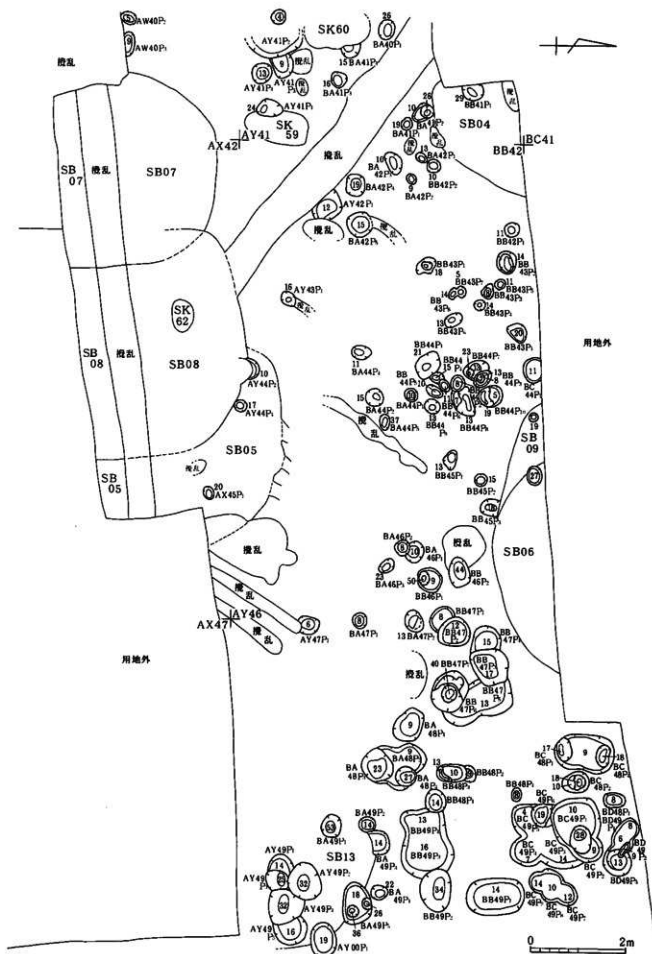
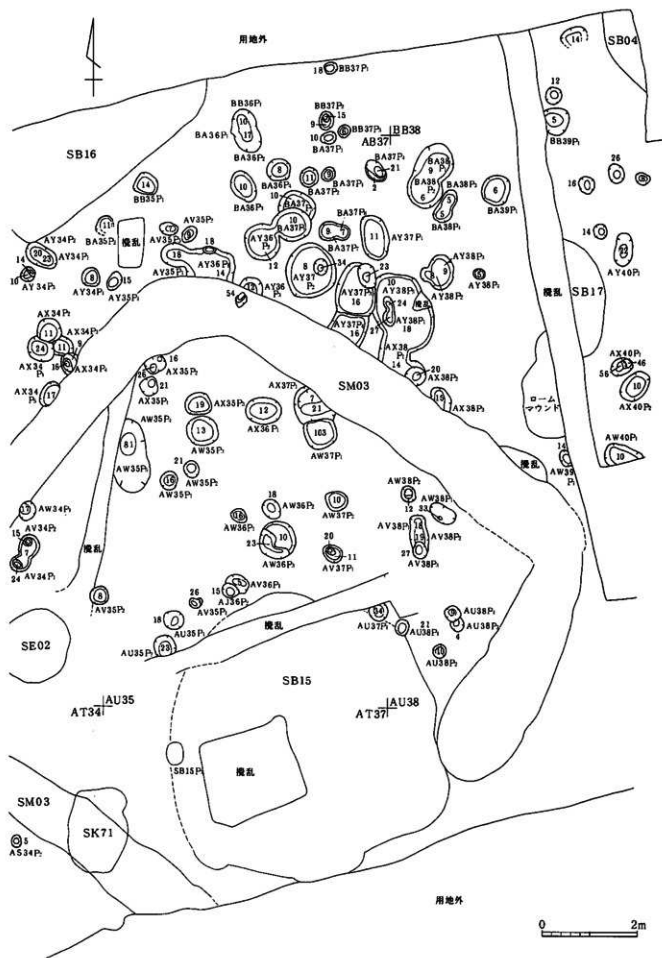
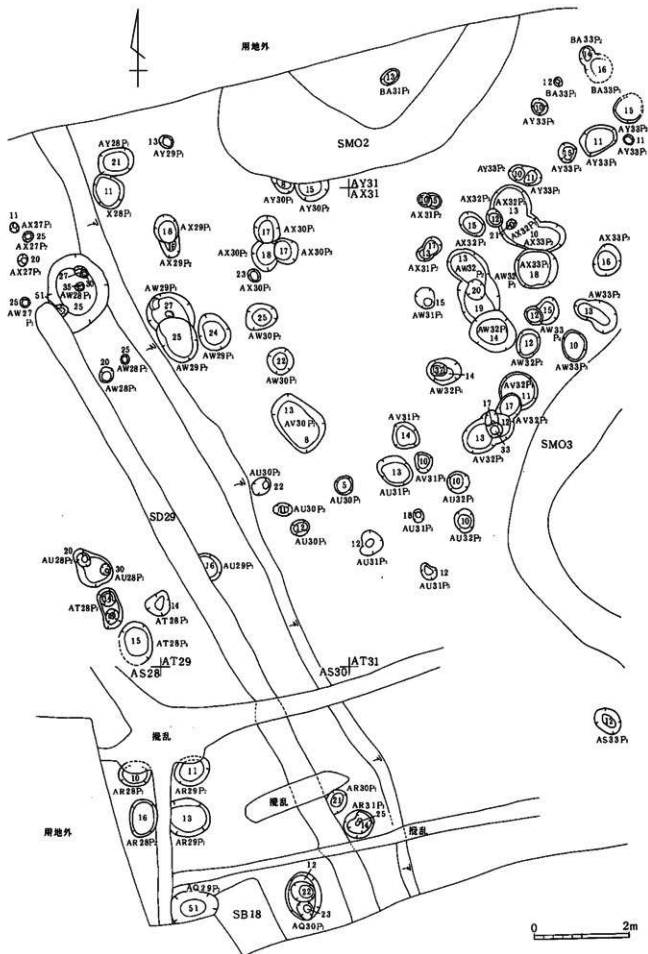


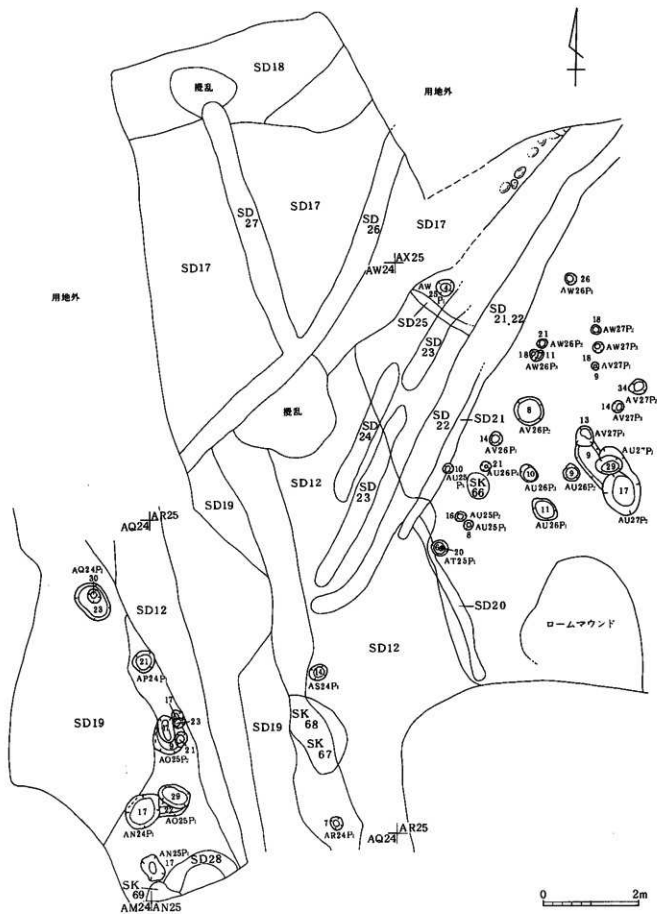
插图 18 周边柱穴平面图(2)



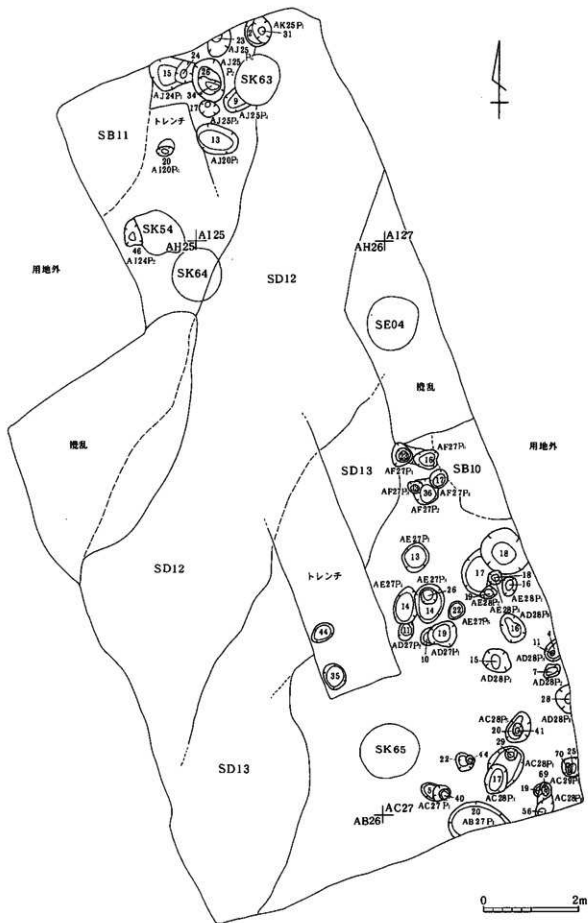
挿図19 周辺柱穴平面図(3)



埴原千代田古墳平面図(4)



挿図21 周辺柱穴平面図(5)



挿図22 周辺柱穴平面図(6)

第四章 まとめ

飯田城下町遺跡は飯田市街地に重なるため、前述のとおり近世以前の埋蔵文化財の状況は不明な点が多い。今回の飯田郵便局々舎建替事業地についても現局舎部分を中心に既に大きく破壊されており、遺跡の全体像を描くにはほど遠いが、時代毎に概括し、総括とする。

1. 縄文時代

縄文時代には、12棟の竪穴住居址が調査され、重複関係等から少なくとも3時期の変遷が把握された。多くは既存の局舎北側に位置するが局舎南西側の南区でも2棟調査されており、既存の局舎によりその多くが破壊されたものの、相当数の住居址の存在が推定される。その分布はやや弧状を呈しており、谷川までそう距離がないこと等から、縄文集落に通例の環状構造はとらず、半環状を呈すると考えられる。なお集落は調査地点の北側に延びていることは疑いなく、大規模な集落であったことは想像に難くない。また、住居址の検出はないものの、後期に下る土坑もあることから、集落の存続期間も相当長期に及んだと考えられる。住居址群の北西側や南東側には土坑をはじめ多数の穴が掘り込まれている。竪穴住居址の分布状況からみて谷川に面した北西側に該期集落の広場と考えられる部分があり、居住域の内外縁に墓域が分布している可能性が考えられる。竪穴住居址の主軸方向からみると住居址の入口は広場とは90°方向を異にし、南西方向をとる。こうした状況から、本集落は居住域の南東側に集落外に通じる道があったことが考えられる。

これまで市街地での縄文時代の集落については、大門町で中期中葉の住居が断片的に知られていた他、源長川に面した箕瀬遺跡で数棟の竪穴住居址が調査されており、城下町形成とそれに引き続く市街地化の過程で不明であった該期の様相が少しずつ明らかにならつつある。今次調査はこうした点で重要な知見を提供するものといえる。

また、断片的な遺物出土であるものの、本調査地点での人間活動の痕跡が8,000年前の縄文時代早期に遡り、飯田城跡内で出土した細石刃核や箕瀬遺跡の押型土器と合わせて、縄文時代の最初頭には少なくとも活動の場であったことが把握された。こうした草創期・早期の遺物確認は天竜川西岸の低位段丘上では点々で行われており、竪穴住居址等具体的な居住の痕跡はないものの、定住集落の存在はほぼ確実な状況にある。本遺跡においても谷川を控えた条件に恵まれた場所であることから、押型文期集落の存在が想定される。

2. 弥生時代

弥生時代には竪穴住居址1棟・方形周溝墓2基が調査された。集落景観等を把握することは困難であるが、既存局舎により破壊された部分および調査地点北側に住居址・周溝墓が展開し、谷川に沿って住居・墓が分布する姿が想定される。羽場曙遺跡・方角東遺跡をはじめ中位段丘上の該期集落の諸例からみて、数棟単位から構成される集落があった可能性が考えられる。また、谷川に並行して集落が展開する姿からは、谷川と集落の間の部分での稲作、集落の東側では畑作といった生産活動が行われた可能性が考えられる。

3. 中・近世

中世から近世前半の状況は詳述しがたいが、S D21～S D24といった水田に関連すると考えられる遺構から、中位段丘の水田開発が進んだことが看取される。今次調査結果と同様、年代的な位置づけは十分でないが、羽場曙遺跡で把握された中世の溝址群（飯田市教委 2003b）等もこうした状況を示すものと考えられる。

近世後期には飯田城下町が拡大し、本地点でも町屋が営まれる。暗渠排水S D26・S D27・S D29の状況を見ると、先行するS D26が地形に沿って設けられているのに対し、S D27・S D29が街路に対して直交方向に直線状に配されている。市街地の無秩序な拡大が先行し、中途から計画的に整備された町の様子が窺える。ただ、S D29の上部に旧耕土と考えられる土層があるなど、部分的かつ断続的に耕地化された時期があったと思われる。あるいは谷川の南側には武家地が広がっていたことから武家給地等があった可能性も考えられる。

前述したとおり、谷川に面した部分には古墳時代以降近世後期までの間に自然流路が幾筋も確認されている。また、S B16から東側の平坦な部分の基本層序で、洪水に起因すると考えられる砂が断片的に把握されている。先にみた谷川等の河川の流路変更もまた、主に洪水に起因すると考えられ、本調査地点周辺をたびたび自然災害が襲ったことが窺える。

以上のとおり、調査によりさまざまな知見が提供され、先人達の活動の一端が明らかにされた。市街地地区での開発は一部大規模な再開発が予定されているものの、個別の建物更新がその中心であり、規模の小さなものが多い。こうした中での埋蔵文化財保護の取り組みは必ずしも充分でないのが実状であるが、調査を積み重ねることにより丘の上の辿ってきた姿や果たしてきた役割が解明されていくことが期待される。今後さらに手厚くその保護を進めることが肝要である。

＜引用参考文献＞

- | | | |
|-----------------|-------|--|
| 飯田高校考古学研究会 | 1975 | 「飯田市大門町遺跡調査報告」『下伊那考古学会誌Ⅱ』 |
| 飯田市教育委員会 | 1977 | 『伊賀良中島平』 |
| 飯田市教育委員会 | 1979 | 『風越窯址』 |
| 飯田市教育委員会 | 1983 | 『酒屋前遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1987 | 『殿原遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1988a | 『丸山遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1988b | 『小垣外・八幡面遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1991a | 『公文所前遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1991b | 『ガンドウ洞遺跡 飯田城跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1992 | 『殿原遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1994 | 『中村中平遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1996a | 『富の平遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1996b | 『中川遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 1998 | 『美女遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 2001 | 『飯田城下町遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 2002a | 『箕瀬遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 2002b | 『飯田城跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 2003a | 『辻前遺跡』 |
| 飯田市教育委員会 | 2003b | 『羽場曙遺跡 方角東遺跡』 |
| 大 沢 和 夫 | 1956 | 「風越窯遺物発見記」『伊那』1956-8 |
| 小 林 正 春 | 1995 | 「ゴミ穴は語る—①城内の食生活」『図説 飯田・下伊那の歴史（上）』
郷土出版社 |
| 佐々木 嘉 和 | 1995 | 「ゴミ穴は語る—②鹿城の時」『図説 飯田・下伊那の歴史（上）』
郷土出版社 |
| 下伊那教育会・飯田市教育委員会 | 1988 | 『伝馬町遺跡』 |
| 下伊那誌編纂会 | 1955 | 『下伊那史 第二巻』 |
| 下伊那歴史考古学研究所 | 1979 | 『飯田風越窯址』 |
| 長野県教育委員会 | 1971 | 『長野県中央道埋蔵文化財発掘調査報告書 飯田地区』 |
| 長野県教育委員会 | 1973 | 『長野県中央道埋蔵文化財発掘調査報告書 飯田市内その2』 |
| 長野県史刊行会 | 1988 | 『長野県史 考古資料編 全一巻（四） 遺構・遺物』 |
| 八 幡 一 郎 | 1972 | 『日本中部山地に於ける縄文早期文化の研究（上）』慶友社 |

	打製石斧	磨製石斧	大型環狀石斧	小形石砧	石錘	敲打器	磨石	凹石	石皿	模切型石器	石鏟	石鏟	削片-埋藏	磁石	七工六工字一工	石核	削片類
SR03																	黒1
SR04	大形	中-小形	磨製石斧	大型環狀石斧													黒1
SR04P1		厚2							他1								厚1
SR05P1																	厚1
SR05P2																	厚1
SR05P3			黒1														厚1
SR06																	黒1
SR07P1		厚3	黒1														厚1
SR08		厚2															黒1
SR09																	黒1
SR12-14		厚3	緑片1														黒2
SR12			黒1						他1								黒2
SR12P4																	黒1
SR12P5		厚1															黒1
SR12P7																	黒1
SR14		厚1	黒1														黒1
SR14P3		厚1	黒1														黒1
SR14P7																	黒1
SR14P8																	黒1
SR15		厚1	黒2														黒1
SR15P7																	黒1
SR15P8			黒1														黒1
SR15P11																	黒1
SR55		厚1															黒1
SR63																	黒1
SR66		厚1															黒1
SR67		厚2															黒1
SD12		厚1	黒1														厚1
SD13																	厚1
AE2/P2																	厚1
AF2/P1																	厚1
AF2/P7																	厚1
AF2/P8																	厚1
AL02P2																	厚1
AL02P4																	厚1
AV02P2																	厚1
AV2/P1																	厚1
AV3/P4																	厚1
AV04P2																	厚1
BA08P1																	厚1
BA08P1																	厚1
選外	厚4	厚3	厚2	厚1													厚1

第1期 土石器分類表

図版No.	遺構名	器種	石材	長さ×幅×厚さ(mm)	重量(g)	備考
1	SB04	横刃型石器	硬砂岩	55×74×15	53	
2	SB04	横刃型石器	硬砂岩	53×—×19	74	折損
3	SB04	横刃型石器	硬砂岩	43×87×12	45	
4	SB04	磨製石斧	硬砂岩	92×48×20	97	敲打器に転用
5	SB05P1	横刃型石器	硬砂岩	54×83×16	78	
6	SB05P2	横刃型石器	硬砂岩	46×120×21	101	打製石斧から転用
7	SB05P2	磨製石器	緑色岩	—×24×8	16	折損
8	SB05P3	横刃型石器	硬砂岩	54×94×14	76	
9	SB07	打製石斧	緑色岩	105×48×13	110	刃部摩減
10	SB07	打製石斧	硬砂岩	—×46×15	62	刃部折損
11	SB07	横刃型石器	硬砂岩	76×132×22	281	
12	SB07	横刃型石器	粘板岩?	37×58×17	16	
13	SB07	砥石	不明	53×37×10	20	
14	SB07	砥石	砂岩	29×25×9	11	
15	SB07P1	石錘	硬砂岩	73×45×15	75	
16	SB08	横刃型石器	緑色岩	42×67×10	39	
17	SB08	打製石斧	緑色岩	131×46×25	122	背・腹面とも摩耗が著しい
18	SB08	打製石斧	硬砂岩	154×51×20	183	刃部摩減
19	SB10P2	横刃型石器	硬砂岩	44×58×6	21	
20	SB12・14	横刃型石器	硬砂岩	54×73×11	50	
21	SB12	横刃型石器	硬砂岩	62×96×12	72	
22	SB12・14	横刃型石器	硬砂岩	56×37×8	17	
23	SB12・14	打製石斧	緑色岩	114×47×23	131	刃部摩減
24	SB12・14	打製石斧	緑色岩	99×40×15	93	刃部摩減
25	SB12・14	打製石斧	珪質片岩	90×45×17	86	
26	SB12	石皿	花崗岩	253×238×85	6700	
27	SB14	打製石斧	緑色岩	95×36×11	60	
28	SB14	打製石斧	硬砂岩	117×52×21	146	
29	SB14	打製石斧	緑色岩	182×50×35	412	
30	SB14	石錘	硬砂岩	66×41×15	50	
31	SB14P7	横刃型石器	硬砂岩	37×62×10	17	
32	SB14P7	砥石	硬砂岩	133×47×40	387	
33	SB15	打製石斧	緑色岩	127×53×15	123	刃部摩減
34	SB15	打製石斧	緑色岩	81×37×11	43	刃部摩減
35	SB15	打製石斧	硬砂岩	76×50×13	53	刃部摩減
36	SB15	横刃型石器	硬砂岩	63×76×13	59	
37	SB15	横刃型石器	硬砂岩	49×64×10	25	
38	SB15	粗製石匙	緑色岩	50×32×10	13	
39	SB15P8	打製石斧	緑色岩	98×35×10	60	
40	SB15P11	横刃型石器	硬砂岩	57×94×13	65	
41	SK56	打製石斧	硬砂岩	123×49×23	168	刃部摩減
42	SK58	打製石斧	硬砂岩	95×41×20	92	刃部摩減
43	SK63	台石	花崗岩	—×242×128	7600	
44	SK67	打製石斧	硬砂岩	135×74×25	302	刃部摩減
45	SD12	打製石斧	緑色岩	108×41×10	50	全体が著しく摩耗
46	SD12	打製石斧	硬砂岩	116×48×20	115	刃部摩減
47	SD12	横刃型石器	硬砂岩	50×86×10	42	
48	SD12	横刃型石器	硬砂岩	56×100×17	89	
49	SD12	横刃型石器	硬砂岩	77×46×18	47	
50	SD12	磨製石斧	緑色岩	—×31×12	33	基部折損
51	SD13	打製石斧	硬砂岩	120×37×15	79	流水のため著しく摩減
52	SD13	横刃型石器	硬砂岩	61×77×16	78	
53	SD13	横刃型石器	硬砂岩	56×79×12	54	
54	SD13	磨製石斧	緑色岩	134×48×40	416	刃部再生、基部欠損
55	SD13	石錘	硬砂岩	53×36×14	42	
56	遺構外	横刃型石器	硬砂岩	59×82×10	52	
57	遺構外	打製石斧	硬砂岩	106×40×16	93	刃部摩減
58	遺構外	打製石斧	硬砂岩	113×41×14	96	刃部摩減
59	遺構外	打製石斧	硬砂岩	121×59×29	234	刃部摩減
60	遺構外	打製石斧	硬砂岩	158×58×27	285	
61	遺構外	打製石斧	緑色岩	83×47×17	63	刃部摩減
62	遺構外	打製石斧	緑色岩	97×36×9	53	摩減
63	遺構外	大形粗製石匙	硬砂岩	100×38×14	50	
64	SB06	石錘	黒曜石	35×13×8	3	
65	SB06	石錘	黒曜石	19×14×5	1	
66	SB06	石錘	黒曜石	12×12×3	1	
67	SB07	t ¹ Ⅹ-Ⅹt ¹ -1	黒曜石	19×17×8	2	
68	SD13	石錘	黒曜石	24×18×5	2	
69	AL02P2	石錘	黒曜石	19×14×3	1	
70	遺構外	兩器	黒曜石	26×20×10	5	

第2表 石器観察表

品名	品種	土色	土性	しまり	粘性	法団(cm)	形状	出土箇所	時代	備考
S902	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり					
S904	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S904P1	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S904P2	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S904P3	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S904黒溝	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり					
S905	10YR3/2	黒褐	SL	良	ややあり					
S905P2	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					
S905P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					
S905P4	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AY45P1から取置
S905P5	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AY45P2から取置
S906P1	10YR3/2	黒褐	LC	良	なし					AY45P3から取置
S907P1	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S907P2	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり					
S907P3	10YR3/2	黒褐	SC	良	あり					
S907P4	10YR3/2	黒褐	SC	良	あり					
S907黒溝	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり					
S908P1	7.5YR3/2	黒褐	SC	良	なし					
S908P2	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり					AY44P1から取置
S908P3	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					
S908P4	10YR3/1	黒褐	LC	良	ややあり					
S908P5	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり					
S908P6	10YR3/1	黒褐	SC	良	あり					
S910	10YR3/1	黒褐	SC	良	あり					炭化物を微量含む。
S910P1	10YR3/3	暗褐	SL	良	ややあり					
S910P2	7.5YR2/2	黒褐	LC	良	ややあり					AF27P7から取置
S910P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AF27P8から取置
S910P4	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AF27P1から取置
S910P5	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあり					AF28P1から取置
S911	-	-	-	-	-					
S911P1	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AJ24P2から取置
S911P2	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AJ24P5から取置
S911P3	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AJ24P4から取置
S911P4	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					AJ24P3から取置
S912P5	2.5Y3/2	-	LC	良	ややあり					
S912P1	-	-	-	-	-					S912P8から取置
S912P2	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり					
S912P4	5YR3/2	暗赤褐	LC	良	ややあり					S912P9から取置。
S912P5	7.5YR2/1	黒	LC	良	ややあり					S912P7から取置。炭化物を微量含む。
S912P6	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					
S912P7	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり					S912P1から取置。炭化物を微量含む。
S912P8	10YR3/2	黒褐	LC	良	なし					
S912P9	7.5YR2/2	黒褐	LC	良	ややあり					S912P1から取置。炭化物を微量含む。
S912黒溝	7.5YR4/1	暗灰	LC	良	ややあり					
S912黒溝	10YR3/2	黒褐	LC	良	なし					S912P5から取置。炭化物を微量含む。

SB1293から変更

SB1294から変更
SB12910から変更
炭化物を微量含む。
炭を多く含む。炭化物を少量含む。
炭化物を少量含む。
炭化物を微量含む。
炭化物を微量含む。

炭化物を微量含む。

炭化物を微量含む。

古墳時代以降
奈良時代以降縄一中期-後期-晩期。土一坏D-類B
縄一中期-後期。須一坏B遺394.遺3123.長崎M26.5 E.M115. W
長崎M10.遺40-19.長崎16-41.長崎65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 W遺394.遺3123.長崎M26.5 E.M115. W
長崎M10.遺40-19.長崎16-41.長崎65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 W遺394.遺3123.長崎M26.5 E.M115. W
長崎M10.遺40-19.長崎16-41.長崎65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 W遺394.遺3123.長崎M26.5 E.M115. W
長崎M10.遺40-19.長崎16-41.長崎65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 E
長崎702.1.遺1-3.長崎1-4.長崎15 W.M65 W

第4編 遺構調査報告(2)

辺幅名	JS標準色票	土壁色	土性	しまり	粘性	法凸(cm)	形状	出土器物	時代	備考
SD21	10YR3/4	暗褐	SC	やや良	ややあり	長さ10以上、幅9~17、 深さ1~5、黒輪N28* E			近世	灰を含む。
SD22	10YR5/3	にぶい黄褐	SC	不良	ややあり	長さ126以上、幅32~53、 深さ3~16、黒輪Z25* E、N75* E		縄 陶一〔香沢瀬戸系〕	近世	
SD23	10YR4/2	灰黄褐	SC	不良	あり	長さ635以上、幅30~41、 深さ4~8、黒輪N25.5* E		縄 磁一皿(瀬戸系)・[小水注]、陶一小皿	19世紀以降	
SD24	10YR4/2	灰黄褐	SC	不良	あり	長さ310、幅30~40、深さ1~8、 黒輪N24* E				
SD25	-	-	-	-	-	長さ153以上、幅16~20、 深さ4~7、黒輪N10* W、N53* W				
SD26	10YR3/3	暗褐	S	不良	なし	長さ810以上、幅30~50、 深さ28~32、黒輪N17* W		磁一小平・壺油壺(肥前系)、陶一小瓶(瀬戸系)、 中腹・土瓶蓋・楕圓瀬戸系、善石	近世	
SD27	10YR2/3	黒褐	SL	やや良	ややあり	長さ530以上、幅40~50、 深さ20、黒輪N18* W、N17* W				
SD28	10YR3/3	暗褐	LC	不良	ややあり	長さ170以上、幅20~40、 深さ2~4、黒輪N10* W、N10* E		縄	近世	暗褐
SD29	10YR5/3	にぶい黄褐	S	良	なし	長さ1450以上、幅44~60、 深さ39~53、黒輪N26* W	不整形			A2P1から変更、 A2P2から変更、
SK54	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	115×88×1523・321、N55* W			近世	地下室
SK55	-	-	-	-	-	80×(66)×15、N82* W	不整形円形			
SK56	-	-	-	-	-	1070以上×160×97、 N48* E、N34* E、N60* W	不明		19世紀以降	
SK58	-	-	-	-	-	133×70×11023、N83* W	不整形円形			
SK59	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	112×-×19、-	不明			
SK60	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	70×46×38、N90* E	楕円形			A2P5から変更、 A4P2SP1から変更、 AC27P1から変更、
SK61	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	120×91×72、N11* E	楕円形			灰を含む
SK63	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	110×103×59、N3* E	楕円形			
SK64	10YR2/1	黒褐	LC	良	ややあり	120×118×28320、N65* E	楕円形			
SK65	7.5YR2/1	黒褐	LC	良	ややあり	61×47×13、N33* W	楕円形			
SK66	10YR3/3	黒褐	LC	良	ややあり	144×92×35、N2* W	楕円形			
SK67	10YR2/2	黒褐	LC	良	あり	×65×14、-	不明			
SK68	10YR2/2	黒褐	LC	良	あり	-×X×26、-	不明			
SK69	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり	-×X×-	-			SK03磁器内土壁の可能性あり、 地下室、A33P41、A33SP1、 A13P41から変更、
SK70	10YR2/2	黒褐	LC	良	ややあり	-×X×-	-			
SK71	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	177×123×7、N9* E	楕円形		近世	
SE02	-	-	-	-	-	90×75×-			近世	
AC27P1	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	120×-×20	不明	楕円形		
AC27P2	10YR3/1	黒褐	LC	良	ややあり	60×35×8(40)	不整形楕円形			
AC28P1	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	40×35×55	不明			
AC28P2	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	35×35×16(69)	不整形			
AC28P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	62×50×17	楕円形			
AC28P4	10YR3/1	黒褐	LC	良	ややあり	×67×29	不明			
AC28P5	7.5YR3/1	黒褐	LC	良	ややあり	72×48×20(41)	不整形楕円形			
AC29P1	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	40×-×25(70)	不明			

第5編 調査報告書(3)

時代

出土遺物

形状

法量 (cm)

粘性

しまり

工性

土質色

遺物名

50年代色票

遺物名

遺物名	50年代色票	土質色	工性	しまり	粘性	法量 (cm)	形状	出土遺物	時代	備考
AD27P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	80×56×10(19)	不整形	縄		
AD27P2	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X33×13	不明			
AD28P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	61×3×28	不整形	縄一中期後葉		
AD28P2	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	40×28×7	不整形			
AD28P3	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X55×4(1)	不整形			
AD28P4	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	60×50×15	不整形			
AD28P5	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	62×46×16	楕円形			
AE27P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	69×55×13	楕円形	縄一後期		
AE27P2	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	95×-X17	不明			
AE27P3	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	84×62×14(26)	楕円形			
AE27P4	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	80×50×14	不整形	縄一中期後葉		
AE27P5	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	40×32×22	楕円形			
AE28P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	44×31×16	楕円形			
AE28P2	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	35×24×19	不整形	縄一後期前葉		
AE28P3	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	30×30×18	不整形	縄一後期		
AE28P4	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	103×87×18	不整形			
AF27P3	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	70×55×36	不明			
AF27P4	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X24×13	不明			
AF27P5	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	40×38×17	円形	縄一後期		
AF27P6	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	50×47×32	不整形	縄		
AD26P2	-	-	LC	良	ややあり	53×40×16	不整形	縄一中期後葉		
AD26P6	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	-	56×35×46	楕円形			
AJ24P1	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	37×34×20	不明			
AJ25P1	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X70×15(24)	楕円形			
AJ25P2	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	90×55×13	楕円形			
AJ25P3	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	83×68×26(34)	楕円形			
AJ25P4	7.5YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	45×34×17	楕円形			
AJ25P6	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X46×9	不明			
AJ25P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	ややあり	-X48×23	楕円形			
AK24P1	10YR3/2	黒黒	LC	良	あり	62×56×23(31)	楕円形			
AK25P1	10YR2/3	黒黒	LC	良	あり	85×65×17	楕円形			
AK25P1	10YR2/3	黒黒	LC	良	ややあり	80×40×17	不整形	縄一後期？		
AK25P1	10YR4/3	黒黒	SC	良	ややあり	(80)×(70)×22(29)	不明	縄一中期？		
AK25P2	10YR4/3	黒黒	SC	良	あり	81×75×9(17-21)	不整形			
AP24P1	10YR2/2	黒黒	LC	良	あり	48×46×21	不整形			
AQ24P1	10YR3/1	黒黒	SC	良	あり	85×63×23(30)	不整形			
AQ24P1	2.5Y3/1	黒黒	SC	良	あり	-X-X51	不整形			
AQ30P1	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	102×76×22	楕円形	縄一中期前葉～後葉		
AR24P1	10YR2/2	黒黒	LC	良	あり	40×32×15	楕円形			
AR24P1	10YR3/1	黒黒	LC	良	あり	30×25×7	楕円形			
AR28P1	7.5Y3/2	黒黒	LC	良	ややあり	68×(54)×10	楕円形			
AR28P2	10YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	78×58×16	楕円形			
AR28P2	10YR2/3	黒黒	SC	良	ややあり	-X78×13	不整形			
AR29P2	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	78×(62)×11	不整形			
AR30P1	7.5YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	-X43×21	不明			
AR31P1	7.5YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	67×60×25	楕円形	縄一中期前葉～後葉		
AS24P1	10YR2/3	黒黒	LC	良	あり	35×35×14	楕円形	縄一中期後葉		

近似名	処理色票	土の色	土性	しまり	粘性	法口(㎝)	形状	出土器物	時代	備考
A333P1	25YR4/2	灰赤	SC	良	ややあり	62×50×12	楕円形			
A334P2	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	25×20×5	楕円形			
AT25P1	—	—	—	—	—	37×35×6(20)	楕円形			
AT28P1	5YR3/6	暗赤褐	SC	良	ややあり	—×42×14	不整形	縄		
AT28P2	7.5YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	—×43×6(8)	不整形			
AT28P3	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	56×53×15	不整形	縄—中期後葉		
AT28P4	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	(93)×(70)×15	楕円形	縄?		
AL25P1	10YR3/1	暗赤	SC	良	あり	19×17×8	円形		中-近世	
AL25P2	10YR3/3	暗褐	LC	良	あり	23×19×16	円形		中-近世	
AL25P3	—	—	—	—	—	23×21×10	円形			
AL25P4	10YR3/3	暗褐	LC	良	あり	19×21×21	円形			
AL26P1	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	50×47×11	不整形			
AL26P2	25Y3/3	暗オリーブ褐	SC	良	ややあり	38×34×9	楕円形			
AL26P3	25Y3/1	黒褐	SC	良	ややあり	42×33×10	楕円形			
AL27P1	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	—×80×13(29)	不明			
AL27P2	10YR3/2	暗褐	SC	良	ややあり	95×78×17	不整形			
AL28P1	10YR3/4	灰褐	SC	良	ややあり	74×—×16(30)	円形	縄—中期後葉		
AL28P2	7.5YR4/2	灰褐	SC	良	ややあり	—×38×20	不明			
AL29P1	7.5YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	62×—×16	不明			
AL30P1	25Y3/1	黒褐	SC	良	ややあり	42×37×5	楕円形			
AL30P2	25Y3/1	黒褐	SC	良	ややあり	37×35×22	楕円形	縄—後期前葉		
AL30P3	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	40×28×11	楕円形			
AL30P4	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	40×34×12	楕円形			
AL31P1	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあり	65×63×13	不整形			
AL31P2	25Y3/2	暗褐	SC	良	ややあり	51×48×12	円形		中-近世	
AL31P3	25Y3/2	暗褐	SC	良	ややあり	27×23×12	不整形			
AL31P4	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	36×30×12	円形			
AL31P5	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	48×46×10	円形			
AL32P1	10YR2/3	暗褐	SC	良	ややあり	48×43×10	円形			
AL32P2	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあり	45×41×18	円形	縄—中期後葉		
AL35P1	25Y3/1	黒褐	SC	良	ややあり	46×44×23	円形	縄		
AL37P1	10YR3/1	暗褐	SC	良	ややあり	41×—×34	不整形			
AL38P1	10YR3/1	暗褐	SC	良	ややあり	34×30×21	円形			
AL38P2	25Y3/1	暗褐	SC	良	ややあり	30×29×10	円形			
AL38P3	25Y3/1	暗褐	SC	良	ややあり	—×30×4	不整形			
AL38P4	10YR3/2	暗褐	SC	良	ややあり	36×32×9	不整形			
AL39P1	7.5YR3/2	暗赤	LC	良	ややあり	180×—×40	不明	縄—中期後葉		
AL39P2	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	50×44×26	方形	縄—中期後葉		
AL39P3	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	27×26×14	方形			
AL39P4	10YR4/1	暗灰	LC	良	ややあり	7×68×12	楕円形			
AL39P5	10YR4/1	暗灰	LC	良	ややあり	32×25×15	楕円形	縄?		
AL39P6	7.5YR4/1	暗灰	LC	良	ややあり	40×37×11	円形			
AL39P7	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	49×40×18	楕円形	縄		
AL39P8	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	70×43×10(28)	不整形			
AL39P9	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	55×50×20	不整形			
AL39P10	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	40×30×20(29)	不整形			
AL39P11	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	44×37×18	楕円形	縄—中期後葉		

灰化物を微量含む。

採掘名	土質色	土性	しまり	粘性	法量 (cm)	形状	出土遺物	時代	備考
AL0302	10YR3/1 黒黒	LC	良	ややあり	48×44×10	不整形		中-近世	
AL0303	10YR2/2 黒黒	LC	良	ややあり	25×20×5	楕円形			
AL0304	10YR3/3 黒黒	LC	良	ややあり	40×30×10(17)	楕円形			
AL0401	10YR3/3 暗黒	LC	良	ややあり	44×35×15	不整形			
AL0402	7.5YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	93×66×12	不整形			
AL0501	7.5YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	65×49×15(17)	楕円形			
AL0502	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	84×—×14	楕円形			
AV2601	10YR3/2 黒黒	—	—	—	26×24×14	円形		中-近世	
AV2602	10YR3/2 黒黒	SC	良	ややあり	62×62×8	円形			
AV2701	10YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	16×16×9	円形		中-近世	
AV2702	10YR3/2 黒黒	SC	良	ややあり	35×34×34	不整形			
AV2703	10YR4/2 灰黄褐	SC	良	ややあり	24×22×14	円形			
AV2704	10YR3/4 黒黒	SC	良	ややあり	40×36×13	不整形			
AV3001	10YR3/4 暗赤灰	SC	良	ややあり	88×—×8	不明		近世以降	
AV3101	2.5YR3/1 暗赤灰	SC	良	ややあり	44×39×10	不整形			
AV3102	2.5Y3/3 暗赤灰	SC	良	ややあり	56×52×14	不整形			
AV3201	2.5Y3/1 暗赤灰	SC	良	ややあり	82×80×11	円形			
AV3202	2.5YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	73×—×12(17-33)	不明			
AV3203	2.5Y3/1 黒黒	SC	良	ややあり	—×68×13	不明			
AV3401	10YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	47×37×11(24)	楕円形		中-近世	
AV3402	5YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	27×20×26	不整形			
AV3501	10YR3/2 赤	SC	良	ややあり	38×38×8	円形			
AV3502	7.5Y3/2 赤	SC	良	ややあり	53×—×5	不明			
AV3601	10YR3/2 赤	SC	良	ややあり	35×—×10(15)	不明			
AV3602	10YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	81×79×10(23)	円形			
AV3603	2.5Y3/1 黒黒	SC	良	ややあり	44×36×11(20)	楕円形			
AV3701	10YR3/2 黒黒	SC	良	ややあり	36×—×18	不明			
AV3801	10YR3/1 黒黒	SC	良	ややあり	—×40×19	不明			
AV3802	2.5Y3/1 黒黒	SC	良	ややあり	38×32×27	楕円形			
AV3803	10YR3/2 黒黒	SC	良	ややあり	82×—×13	不明			
AV0001	7.5YR3/2 灰黄褐	LC	良	ややあり	29×25×13	不明			
AV0002	10YR4/2 灰黄褐	LC	良	ややあり	40×—×19	不明			
AV0003	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	35×30×12(24)	不明			
AV0004	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	36×—×15	不明			
AV0101	2.5Y3/3 暗赤	LC	良	ややあり	60×44×35	楕円形			
AV0102	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	107×65×15(29)	楕円形			
AV0103	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	42×36×9	楕円形			
AV0104	10YR3/2 黒黒	LC	良	ややあり	46×43×25	楕円形			
AV0105	7.5YR3/3 暗黒	LC	良	ややあり	53×—×15	不明			
AV0106	10YR3/3 暗黒	LC	良	ややあり	54×50×12	不明			
AV0201	10YR3/1 黒黒	LC	良	ややあり	100×60×33(41)	不整形			
AV0202	7.5YR3/2 暗黒	LC	良	ややあり	38×27×17	不整形			
AV0203	5YR3/1 黒黒	LC	良	ややあり	80×66×15	不整形			
AV0204	10YR3/2 暗黒	LC	良	ややあり	30×20×14	不整形			
AV0205	7.5YR3/2 暗黒	LC	良	ややあり	—×60×16	不明			
AV0206	10YR3/3 暗黒	LC	良	ややあり	72×71×20	不整形			

透標名	5S標色票	土色	しまり	粘性	法口(cm)	形状	出土器物	時代	備考
AV03P2	10YR3/3	LC	良	ややあり	32×32×17	円形		中-近世	
AV03P3	10YR3/2	LC	良	ややあり	42×38×9(18)	円形		中-近世	
AV03P4	10YR2/2	LC	良	ややあり	46×40×19	楕円形		中-近世	
AV03P5	10YR3/3	LC	良	ややあり	60×57×13(23)	楕円形		中-近世	
AV03P6	—	LC	—	—	—33×18	楕円形		中-近世	
AV04P1	10YR2/3	LC	良	ややあり	64×52×23	楕円形	縄一早期?	中-近世	
AV04P2	10YR2/2	LC	良	ややあり	72×60×26	楕円形	縄一中期	中-近世	
AV04P3	10YR3/3	LC	良	ややあり	100×70×13	不整形円形	縄一中期後葉	中-近世	
AV04P4	7.5YR3/2	LC	良	ややあり	—X—X20(28)	不明		中-近世	
AV04P5	10YR3/2	LC	良	ややあり	70×—X13	不明		中-近世	
AV04P6	10YR3/2	LC	良	ややあり	—X—X13(36)	不明		中-近世	
AV05P1	10YR2/2	LC	良	ややあり	86×63×29	楕円形		中-近世	
AV05P2	10YR3/2	LC	良	ややあり	60×50×14(26)	楕円形		中-近世	
AV05P3	2.5YR4/1	LC	良	ややあり	80×—X10	不整形円形		中-近世	
AV05P4	10YR3/3	LC	良	ややあり	—X—X42	不明		中-近世	
AV05P5	7.5YR3/2	LC	良	ややあり	75×—X13	不明		中-近世	
AV05P6	7.5YR3/2	LC	良	ややあり	—X—X14	不明		中-近世	
AV05P7	7.5YR4/1	LC	良	ややあり	65×—X14	不明		中-近世	
AV05P8	10YR3/2	LC	良	ややあり	—X103×6	不明		中-近世	
AV05P9	10YR3/3	LC	良	ややあり	65×56×23	不整形円形		中-近世	
AV06P1	7.5YR3/2	LC	良	ややあり	75×(48)×16	不明		中-近世	
AV06P2	10YR3/2	LC	良	ややあり	45×32×15	不整形円形		中-近世	
AV06P3	10YR3/2	LC	良	ややあり	60×(37)×17	不明	縄一中期	中-近世	
AV06P5	7.5YR2/2	LC	良	ややあり	55×40×16(56)	不整形円形	縄	中-近世	
AV25P1	7.5YR2/2	SC	不良	あり	37×32×4	不整形円形		中-近世	
AW26P1	10YR3/2	SC	良	ややあり	25×22×26	楕円形		中-近世	
AW26P2	2.5Y3/3	SC	良	ややあり	22×17×21	楕円形		中-近世	
AW26P3	5YR3/6	SC	良	ややあり	30×23×6(18)	不整形		中-近世	
AW27P1	2.5Y3/2	SC	良	ややあり	20×20×25	円形		中-近世	
AW27P2	10YR3/2	SC	良	ややあり	22×20×18	円形		中-近世	
AW27P3	10YR3/2	SC	良	ややあり	20×20×20	円形		中-近世	
AW28P1	10YR3/2	SC	良	ややあり	154×126×25(27~51)	不整形円形		中-近世	
AW28P2	10YR3/2	SC	良	ややあり	18×18×25	円形		中-近世	
AW28P3	10YR3/2	SC	良	ややあり	32×30×30	円形		中-近世	
AW29P1	10YR3/2	SC	良	ややあり	94×—X27	不整形		中-近世	
AW29P2	10YR3/2	SC	良	ややあり	98×75×25	不整形円形		中-近世	
AW29P3	10YR3/2	SC	良	ややあり	82×66×24	楕円形		中-近世	
AW30P1	10YR3/2	SC	良	ややあり	58×53×22	円形		中-近世	
AW30P2	2.5Y3/1	SC	良	ややあり	68×60×25	楕円形		中-近世	
AW31P1	2.5Y3/1	SC	良	ややあり	44×42×15	楕円形	縄一後期切頭	中-近世	
AW32P1	2.5Y3/1	SC	良	ややあり	100×80×14	不明		中-近世	
AW32P2	10YR3/2	SC	良	ややあり	60×50×12	楕円形		中-近世	
AW32P3	5Y2/2	SC	良	ややあり	—X84×19(21)	不明		中-近世	
AW32P4	2.5Y3/1	SC	良	ややあり	38×36×12	円形	縄一中期後葉	中-近世	
AW32P5	2.5Y3/1	SC	良	ややあり	95×65×13	不整形円形		中-近世	
AW35P6	2.5Y3/3	SC	良	ややあり	74×56×14(37)	不明		中-近世	
AW35P1	10YR3/2	SC	良	ややあり	—X60×14	不明		中-近世	

炭化物を微量含む。

遺構名	瓦葺き色黒	土曜色	土性	しまり	粘性	法量 (m)	形状	出土遺物	備考
AW3392	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	45× X - X 12	不圓	縄一中期後葉	
AW3393	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	65×50×10	楕円形	縄一中期後葉	
AW3394	25Y3/2	黒溝	SC	良	ややあり	57×48×8	不圓	縄一中期後葉	
AW3491	10YR2/2	黒溝	SC	良	ややあり	45×35×17	楕円形	縄一?	
AW3591	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	38×37×15	円形	縄一中期後葉	
AW3592	7.5YR3/1	黒溝	SC	良	ややあり	37×33×21	楕円形	縄一中期後葉	
AW3593	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	70×63×13	円形	縄一中期後葉	
AW3594	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	48×34×81	楕円形	縄一中期後葉	
AW3595	10YR3/1	黒溝	SC	良	ややあり	153× X - X	楕円形	縄一中期後葉	
AW3691	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	37×30×16	不整形楕円形	縄一中期後葉	
AW3692	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	48×37×18	楕円形	縄一中期後葉	
AW3791	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	67×(61)×103	楕円形	縄一中期後葉	
AW3792	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	49×49×10	不整形楕円形	縄一中期後葉	
AW3891	25Y3/1	黒溝	SC	良	ややあり	60×37×33	楕円形	縄一中期後葉	
AW3892	10YR3/1	黒溝	SC	良	ややあり	33×30×12	楕円形	縄一中期後葉	
AW3991	25Y3/2	黒溝	SC	良	ややあり	38× X 14	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4091	5YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	-X(55)×10	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4092	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	35×26×5	楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4093	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	49× X - X 9	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4094	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	- X - X 15(18-55)	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4095	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	34×31×32	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4096	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	71×67×17	方形	縄一土管?	近世以降
AW4097	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	45×40×23	不整形方形	縄一土管?	近世以降
AW4098	10YR3/3	黒溝	LC	良	ややあり	96×50×17(33)	楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4099	10YR3/3	黒溝	LC	良	ややあり	55×40×14	楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4100	10YR3/4	黒溝	LC	良	ややあり	67×54×29	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4291	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	- X 64×30(38)	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4391	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	65× X - X	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4392	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	64×58×12	楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4491	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	31×30×19	円形	縄一土管?	近世以降
AW4492	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	38×(34)×16	不整形	縄一土管?	近世以降
AW4493	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	(40)×38×13	不整形	縄一土管?	近世以降
AW4495	7.5YR3/1	黒溝	SC	良	ややあり	90×(76)×29	不整形楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4496	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	60× X - X 20	不圓	縄一土管?	近世以降
AW4497	10YR3/3	黒溝	LC	良	ややあり	46×42×4	円形	縄一土管?	近世以降
AW4591	10YR3/3	黒溝	LC	良	ややあり	32×32×12	不整形	縄一土管?	近世以降
AW4592	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	90×78×13	不整形	縄一土管?	近世以降
AW4593	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	62×56×8(18)	不整形	縄一土管?	近世以降
AW4594	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	42×38×9	円形	縄一土管?	近世以降
AW4595	5YR4/1	黒溝	LC	良	ややあり	110×62×14	不整形楕円形	縄一土管?	近世以降
AW4691	10YR3/2	黒溝	LC	良	ややあり	40×34×11	円形	縄一土管?	近世以降
AX2791	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	24×20×11	楕円形	縄一土管?	近世以降
AX2792	10YR3/3	黒溝	SC	良	ややあり	26×22×25	不整形楕円形	縄一土管?	近世以降
AX2793	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	25×22×17	楕円形	縄一土管?	近世以降
AX2891	25Y3/2	黒溝	SC	良	ややあり	78×66×11	楕円形	縄一土管?	近世以降
AX2991	10YR3/2	黒溝	SC	良	ややあり	(62)×54×18	不整形楕円形	縄一土管?	近世以降

炭素年代測定結果を念慮より
15cm以内、V層上より取り込み。

型目名	J5標準色票	土壁色	土性	しまり	粘性	法呂 (cm)	形状	出土遺物	時代	備考
AX2992	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	一×45×16	不明			
AX3001	7.5YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	500×52×17	楕円形			
AX3002	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	64×一×18	不整楕円形			
AX3003	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	54×(52)×17	不整円形			
AX3004	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	26×26×23	円形			原化物を微量含む。
AX3101	7.5YR2/1	黒	SC	良	一	一×32×13	不明			中・近世
AX3102	10YR3/2	黒黒	SC	良	一	50×32×5(10)	不明			
AX3103	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	36×一×17	不整楕円形			
AX3201	2.5Y3/1	黒黒	SC	良	ややあり	一×75×10(21)	不明			
AX3202	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	84×一×13	不明			
AX3203	10YR3/2	黒黒	SC	良	一	40×32×12	楕円形			
AX3204	10YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	58×49×15	楕円形			
AX3301	2.5Y3/2	黒黒	SC	良	ややあり	95×85×18	不明			
AX3302	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	65×一×10	不明			
AX3303	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	67×55×16	不整楕円形			
AX3401	2.5Y3/1	黒黒	SC	良	ややあり	60×一×24	不明			
AX3402	10YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	54×50×11	円形			
AX3403	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	一×40×11	不明			
AX3404	10YR3/1	黒黒	SC	良	あり	45×(35)×9(16)	不整楕円形	縄		
AX3405	10YR3/1	黒黒	SC	良	ややあり	55×(32)×17	楕円形			
AX3501	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	37×37×21	不整方形			
AX3502	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	45×一×16(26)	不明			
AX3503	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	56×46×19	不明			
AX3504	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	77×55×12	円形			
AX3701	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	93×一×7(21)	楕円形			
AX3801	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	66×一×14	不明			
AX3802	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	58×一×20	不明			中・近世
AX3803	2.5Y3/2	黒黒	SC	良	ややあり	一×一×15	不明			
AX4001	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	47×40×46(65)	不整楕円形			
AX4002	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	71×49×10	楕円形			
AX4051	10YR3/2	黒黒	SC	良	ややあり	26×24×20	円形			
AX4052	10YR3/3	黒黒	LC	良	ややあり	74×73×19	不明			
AX0101	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり	74×73×18(34)	不明			
AX0102	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	一×57×32(24)	不明			
AX0201	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	50×45×40	円形			
AX0202	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	40×36×14	円形			
AX0301	一	一	一	一	一	99×一×9	不明			
AX0401	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり	一×78×44	不明			
AX0402	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	100×96×30(32)	不整円形	縄		圧削的に縄文が多い
AX0403	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	45×一×13	不明			
AX0404	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	58×52×一	円形			
AX0405	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	95×一×17	不明			
AX0501	10YR3/3	暗褐	LC	良	ややあり	72×70×9(18)	不整楕円形			
AX0502	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	61×56×16	不整楕円形			
AX0501	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	88×74×13	不整方形			縄
AX0502	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	46×43×13	円形			中・近世
AX0503	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	36×30×10	不整円形			

炭化柯を含む。

中・近世

縄一後期

中・近世

縄一後期初頭

中・近世

炭化物を微量含む。

AY0954	10YR3/3	暗黒	LC	良	ややあり	50×一×9	不明		不明
AY0951	10YR3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	78×60×21	楕円形		楕円形
AY0950	2.5Y3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	28×26×13	円形		不明
AY0951	10YR3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	50×一×8	不明		不明
AY0952	10YR3/1	黒褐色	SC	良	ややあり	73×一×15	不明		不明
AY0952	10YR3/1	黒褐色	SC	良	あり	42×(33)×11	不整形		不整形
AY0953	10YR3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	35×35×10	不明		不明
AY0953	10YR3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	60×55×11	不整形		不整形
AY0953	10YR3/2	黒褐色	SC	良	ややあり	(68)×(56)×15	不整形		不整形
AY0953	7.5YR2/2	暗褐色	SC	良	ややあり	25×20×11	楕円形		楕円形
AY0953	10YR3/1	暗褐色	SC	良	ややあり	41×40×15	円形		円形
AY0953	5YR2/4	暗褐色	SC	良	ややあり	一×35×23	不明		不明
AY0953	7.5YR3/1	暗褐色	SC	良	ややあり	一×42×20	不明		不明
AY0953	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	32×28×10(14)	不整形		不整形
AY0953	7.5YR2/2	暗褐色	SC	良	ややあり	42×41×8	不明		不明
AY0953	10YR3/1	暗褐色	SC	良	ややあり	一×50×18	不明		不明
AY0953	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	40×27×9	楕円形		楕円形
AY0954	5Y3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	40×26×7	楕円形		楕円形
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	37×26×15	楕円形		楕円形
AY0954	5Y3/3	暗褐色	SC	良	ややあり	103×一×14(18)	不明		不明
AY0954	10YR3/3	暗褐色	SC	良	ややあり	(70)×49×12(54)	不明		不明
AY0954	10YR3/1	暗褐色	SC	良	ややあり	96×58×11	楕円形		楕円形
AY0954	5Y3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	118×106×8(34)	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	110×82×16(23)	不明		不明
AY0954	10YR3/1	暗褐色	SC	良	ややあり	78×一×16	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	一×一×18	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	31×一×8	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	72×一×9	不明		不明
AY0954	5Y3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	25×22×5	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	122×一×10(24・27)	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	SC	良	ややあり	67×37×22	楕円形		楕円形
AY0954	10YR3/3	暗褐色	SC	良	ややあり	58×36×24	楕円形		楕円形
AY0954	10YR3/3	暗褐色	LC	良	ややあり	一×一×16	不明		不明
AY0954	10YR3/3	暗褐色	LC	良	ややあり	一×48×9	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	LC	良	ややあり	42×40×13	円形		円形
AY0954	10YR4/2	暗褐色	LC	良	ややあり	65×一×12	不明		不明
AY0954	2.5Y3/2	暗褐色	LC	良	ややあり	36×28×16	楕円形		楕円形
AY0954	10YR3/3	暗褐色	LC	良	ややあり	45×一×10	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	LC	良	なし	26×24×17	円形		円形
AY0954	10YR3/1	暗褐色	LC	良	ややあり	45×38×6	楕円形		楕円形
AY0954	10YR3/2	暗褐色	LC	良	ややあり	54×一×14	不明		不明
AY0954	10YR3/1	暗褐色	LC	良	ややあり	80×75×32	不整形		不整形
AY0954	10YR3/1	暗褐色	LC	良	ややあり	45×43×25	不明		不明
AY0954	10YR3/2	暗褐色	LC	良	ややあり	77×一×32	不明		不明
AY0954	10YR3/1	暗褐色	LC	良	ややあり	68×一×16	不明		不明

通稱名	赤褐色系	土着色	しまり	粘性	法量 (cm)	形状	時代	備考
AV0091	15Y3/1	オリーブ黒	良	ややあり	70×55×19	楕円形		
AV0591	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	50×50×19	円形		
AV0592	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	82×60×20	不整形楕円形		
AV0593	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	50×43×27	楕円形		
BA3191	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	42×33×13	楕円形		
BA3391	7.5Y3/1	オリーブ黒	良	ややあり	19×18×12	不明	中・近世	
BA3392	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	37×—×14	不明		
BA3393	2.5Y3/1	黒褐	良	ややあり	(60)×(60)×16	不整形		
BA3394	2.5Y3/1	黒褐	良	ややあり	50×44×14	不明		
BA3395	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	40×—×11	不明		
BA3396	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	57×—×—	不明		
BA3397	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	52×—×17	不明		
BA3398	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	70×49×10	楕円形		
BA3399	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	52×51×8	円形		
BA3400	2.5Y3/1	黒褐	良	ややあり	33×28×10	楕円形		
BA3371	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	44×41×11	円形		
BA3372	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	30×27×9	円形		
BA3373	7.5YR3/1	黒褐	良	ややあり	52×36×2(21)	楕円形	中・近世	
BA3374	7.5YR3/2	黒褐	良	ややあり	80×—×10	不明		
BA3375	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	85×68×10	不明		
BA3376	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	—×40×9	不明		
BA3377	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	32×—×7	不明		
BA3378	7.5YR3/1	黒褐	良	ややあり	—×76×9	不明		
BA3379	2.5Y3/2	黒褐	良	ややあり	—×78×6	不明		
BA3380	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	—×32×5	不明		
BA3381	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	—×38×5	不明		
BA3382	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	69×63×6	不明		
BA3383	10YR3/1	黒褐	良	ややあり	42×36×26	不整形楕円形		
BA4091	—	—	良	—	—	不明		
BA4191	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	26×22×19	円形	中・近世	
BA4192	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	46×34×10(26)	楕円形		
BA4193	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	35×33×16	円形		
BA4194	10YR3/2	黒褐	女	ややあり	—×42×15	不明		
BA4291	10YR3/2	反黄褐	良	ややあり	26×19×13	楕円形		
BA4292	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	22×20×9	円形		
BA4293	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	48×22×10	不整形楕円形		
BA4294	7.5YR3/2	暗褐	良	ややあり	45×36×10	不明		
BA4295	10YR3/2	暗褐	良	ややあり	57×52×15	楕円形		
BA4491	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	28×27×10	楕円形		
BA4492	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	37×36×15	円形		
BA4493	10YR3/2	暗褐	良	ややあり	42×32×11	不整形楕円形		
BA4494	10YR3/3	暗褐	良	—	33×19×37	楕円形		
BA4495	—	—	良	—	—	不明		
BA4691	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	47×—×10	不明		
BA4692	10YR4/2	反黄褐	良	ややあり	34×33×8	円形		
BA4693	7.5YR3/2	暗褐	良	ややあり	36×23×23	楕円形		
BA4791	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	30×30×8	円形		
BA4792	10YR3/3	暗褐	良	ややあり	45×42×13	不整形	中・近世	
BA4891	10YR3/2	黒褐	良	ややあり	75×60×9	楕円形		

記号名	JIS標準記号	土着色	土性	しまり	粘性	法量 (cm)	形状	出土遺物	時代	備考
BA48P2	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	95×-×9	不明			
BA48P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	70×65×23	不整形			
BA48P4	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	44×40×37	楕円形			
BA48P5	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	50×43×53	不整形			
BA48P6	2.5Y3/1	黒褐	LC	良	ややあじ	37×29×14	楕円形			
BA48P7	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	52×-×14	不明			
BA48P8	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	35×30×22	楕円形			
BA48P9	2.5Y3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	83×60×18(26-36)	不整形			
BA48P1	2.5Y3/1	黒褐	LC	良	良	120×-×10(31)	不明			
BA48P2	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	良	95×53×51×27	円形			
BA48P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	77×-×12	不明			
BA48P4	5YR3/1	黒褐	LC	良	ややあじ	69×48×28(47)	不整形			
BA48P5	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	40×-×16	不明			
BA48P6	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	67×-×23	不明			
BA48P7	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	-×-×18	不明			
BA48P8	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	-×-×9(24)	不明			
BA48P9	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	55×45×24	楕円形			
BA48P1	2.5Y3/1	黒褐	LC	良	ややあじ	-×80×32(72)	不明			
BA48P2	2.5Y3/1	黒褐	LC	良	ややあじ	92×(62)×27	楕円形			
BA48P3	10YR3/1	黒褐	LC	良	ややあじ	76×50×8	楕円形			
BA48P4	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	80×78×13	円形			
BA48P5	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	-×68×18	不明			
BA48P6	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	90×-×19	不明			
BA48P7	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	85×64×19	不整形			
BA48P8	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	56×46×20	不整形			
BA48P9	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	-×40×16	不明			
BA48P1	10YR3/1	黒褐	SC	良	ややあじ	98×-×10	不明			
BA48P2	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあじ	-×48×10	不明			
BA48P3	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあじ	29×25×18	不整形			
BA48P4	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあじ	40×32×9(15)	楕円形			
BA48P5	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあじ	30×25×6	円形			
BA48P6	10YR3/2	黒褐	SC	良	ややあじ	59×-×5	不明			
BA48P7	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし	42×-×29	不明			
BA48P8	10YR3/2	黒褐	SC	良	なし	31×30×11	円形			
BA48P9	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	30×-×10	不明			
BA48P1	10YR3/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	44×33×20	不整形			
BA48P2	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	47×32×12(18)	不整形			
BA48P3	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	48×46×14	円形			
BA48P4	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	31×24×8	不整形			
BA48P5	2.5Y3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	25×23×14	不整形			
BA48P6	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	なし	23×21×11	円形			
BA48P7	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	なし	39×27×13	楕円形			
BA48P8	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	なし	23×(20)×5	円形			
BA48P9	10YR4/2	灰黒褐	LC	良	ややあじ	24×(18)×14	楕円形			
BA48P1	7.5YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	55×44×21	長方形			
BA48P2	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	35×30×8	円形			
BA48P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあじ	44×30×8(13)	楕円形			

炭老倉心。

調 - 中期後遺

調

調 - 中期後遺

中・近世
中・近世
中・近世

中・近世
中・近世
中・近世

灰化物老炭倉心。

炭老倉心。

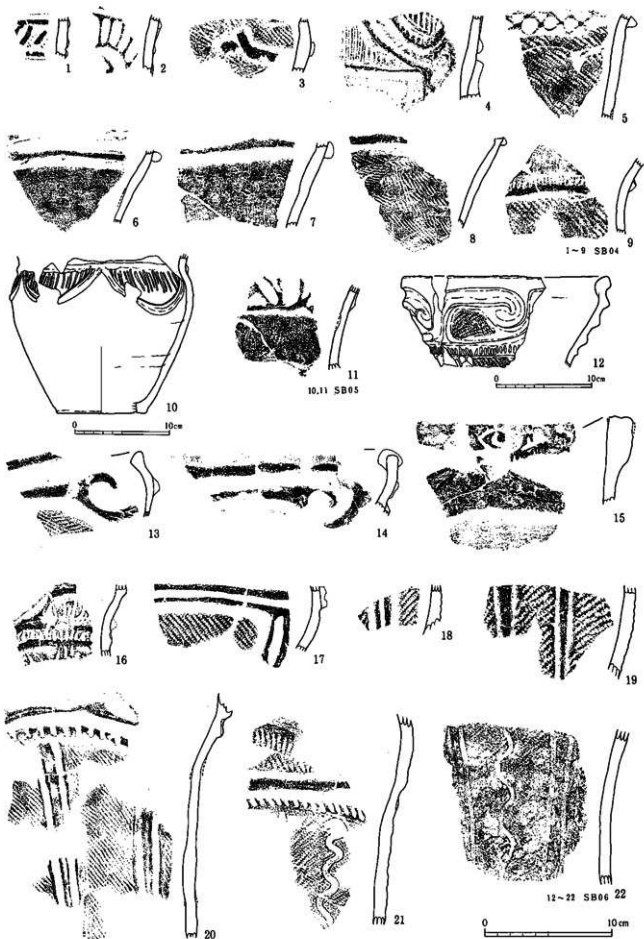
測標名	測標番号	底層着色土の色	土性	しまり	粘性	法口 (cm)	形状	出土器物	時代	備考
5844P4	75YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	29×23×15	不整形円形		近世	
5844P5	75YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	36×20×10	楕円形		中・近世	
5844P6	75YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	28×20×11	楕円形			
5844P7	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	なし	54×—×13(25)	不明			
5844P8	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	なし	70×45×7(13)	不整形方形			
5844P9	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	なし	35×30×13	円形			
5844P10	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	なし	50×44×5(19)	不整形			
5845P1	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	ややあり	40×24×13	円形		中・近世	
5845P2	10YR3/4	黒褐	LC	良	ややあり	26×25×15	不明			
5845P3	10YR3/4	黒褐	LC	良	ややあり	—×35×18	不明			
5846P1	75YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	55×50×9(50)	不整形円形			
5846P2	10YR4/2	暗褐	LC	良	ややあり	63×43×44	不整形円形			
5847P1	10YR4/2	皮黄褐	LC	良	ややあり	59×53×8	円形			
5847P2	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	67×62×12	不整形			
5847P3	10YR3/2	黒褐	LC	良	ややあり	80×76×17	不整形方形			
5847P4	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	—×61×15	不明			
5847P5	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	—×77×13	不明			
5847P6	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	—×—×—	不明			
5847P7	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	88×71×22(40)	楕円形	縄一後期?		
5848P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	50×43×14	不整形円形			
5848P2	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	35×—×9	不明			
5848P3	75YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	62×36×10(13)	楕円形		中・近世	炭化物を微量含む。
5848P4	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	28×20×8	楕円形			
5849P1	10YR2/2	暗褐	LC	良	ややあり	123×78×14	楕円形			
5849P2	75YR2/2	暗褐	LC	良	ややあり	83×70×34	楕円形			
5849P3	5YR3/2	暗赤褐	LC	良	ややあり	113×—×16	不明			
5849P4	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	97×—×13	不明			
5800P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	66×54×24	不整形円形		中・近世	
5800P2	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	30×28×24	不整形円形			
5801P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	75×—×16	不明			
5802P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	—	98×68×21	不明			
5802P2	—	—	—	—	—	48×—×16	楕円形	縄一後期?		
5802P3	2.5Y3/1	黒褐	LC	良	ややあり	60×52×8	不整形円形			
5802P4	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	72×60×26(66)	不整形円形			
5802P5	2.5Y3/2	黒褐	LC	良	ややあり	82×64×24(45)	不整形円形			
5803P1	—	—	—	—	—	100×54×14	不整形円形			
5804P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	78×76×9(22)	不整形円形			
5804P2	—	—	—	—	—	—×80×22	不明			
5804P3	—	—	—	—	—	44×—×31	不明			
5804P4	75YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	44×—×21	不明			
5805P1	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	113×70×29	不整形円形			
5805P2	10YR2/2	暗褐	LC	良	ややあり	44×—×23	不整形円形			
5805P3	—	—	—	—	—	74×74×25	円形			
5805P4	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	56×54×13	円形			
5805P5	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	—×—×15	不明			
5806P1	10YR3/1	暗褐	LC	良	ややあり	—×—×17	不明			
5806P2	10YR3/2	暗褐	LC	良	ややあり	60×—×10	不明	縄一中期		

発掘名	J5標準色票	土紫色	土性	しまり	粘性	法量(m)	形状	出土遺物	時代	備考
BC040P1	10YR3/1	黒紫	SC	良	ややあり	一X-X.9	不明		近世	
BC040P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	52X-X.11	不整楕円形	土師質		
BC040P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	75X-X.5(17)	不明			
BC048P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	57X50X10(18)	不整楕円形			
BC048P4	7.5YR3/1	黒紫	LC	良	ややあり	85X-X.5(18)	不明			
BC048P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	105X-X.10	不整形			
BC048P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	81X57X5(28)	不明			
BC048P3	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	一X-X.14	不明			
BC048P5	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	67X-X.7	不明			
BC048P6	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	70X-X.4	不明			
BC048P7	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	45X-X.19	不明	縄一中期後葉		
BC048P8	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	45X-X.12	不明			
BC048P9	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	70X-X.10	不明			
BC000P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	45X-X.14	不明			
BC000P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	91X60X23	不整楕円形	縄一前期切頭		
BC029P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	40X-X.10	不明			
BC029P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	42X42X23	方形			
BC029P3	2.5Y3/1	黒紫	LC	良	ややあり	32X28X12	楕円形			
BC029P4	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	34X30X10	不明			
BC029P5	10YR3/2	黒紫	LC	良	あり	60X-X.17	不明			
BC030P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	あり	134X112X11	不整楕円形			
BC030P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	50X48X12	不明			
BC030P3	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	70X55X16	楕円形			
BC030P4	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	70X66X15	不整楕円形			
BC040P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	80X56X7	不整楕円形			
BC040P3	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	一X-X.11	不明			
BC040P4	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	60X54X16	不明			
BC040P4	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	58X40X29	楕円形			
BC059P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	38X-X.8	不明			
BC059P2	7.5YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	50X-X.19	不明			
BC059P3	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	77X67X107	楕円形			
BC059P4	7.5YR3/1	黒紫	LC	良	ややあり	一X54X15	不明			
BC059P5	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	46X38X10	不整楕円形			
BC059P6	7.5YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	68X-X.10	不明			
BC069P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	45X30X8	楕円形			
BC048P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	45X-X.8	不明			
BC049P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	48X-X.6(9)	不明			
BC049P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	60X-X.13	不明			
BE030P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	44X-X.6	不明			
BC000P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	102X-X.9	不明			
BC002P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	44X37X13	楕円形			
BC002P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	74X64X16	不整方形			
BC003P1	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	92X74X13	楕円形			
BC003P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	80X70X10	楕円形			
BC004P1	10YR3/3	黒紫	LC	良	ややあり	60X52X16(32)	楕円形	縄一中期後葉		
BC004P2	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	46X34X19	方形	縄一中期		
BC004P3	10YR3/2	黒紫	LC	良	ややあり	62X54X一	方形			

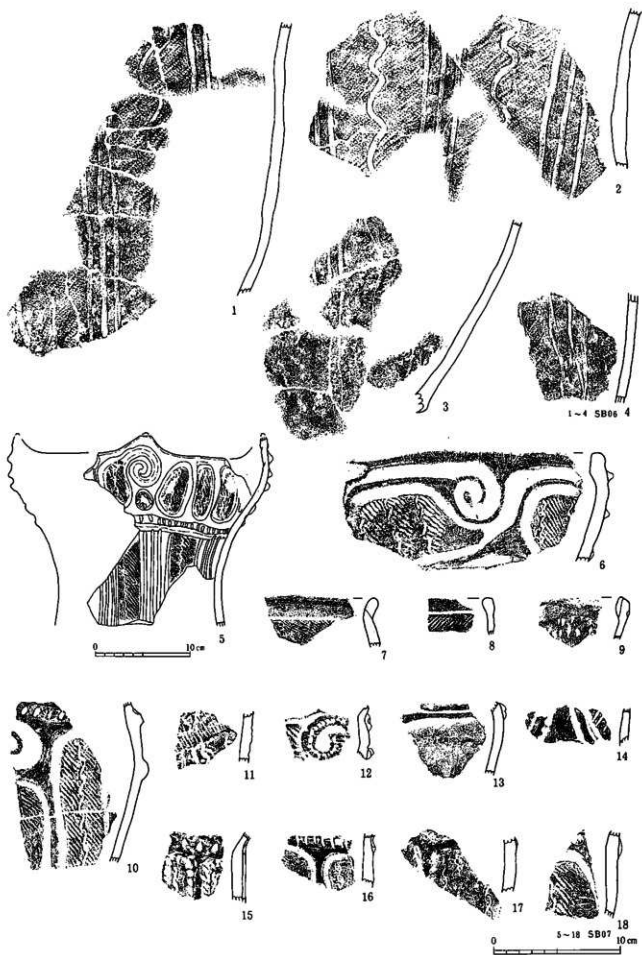
灰化物少量含む

灰も多く含む

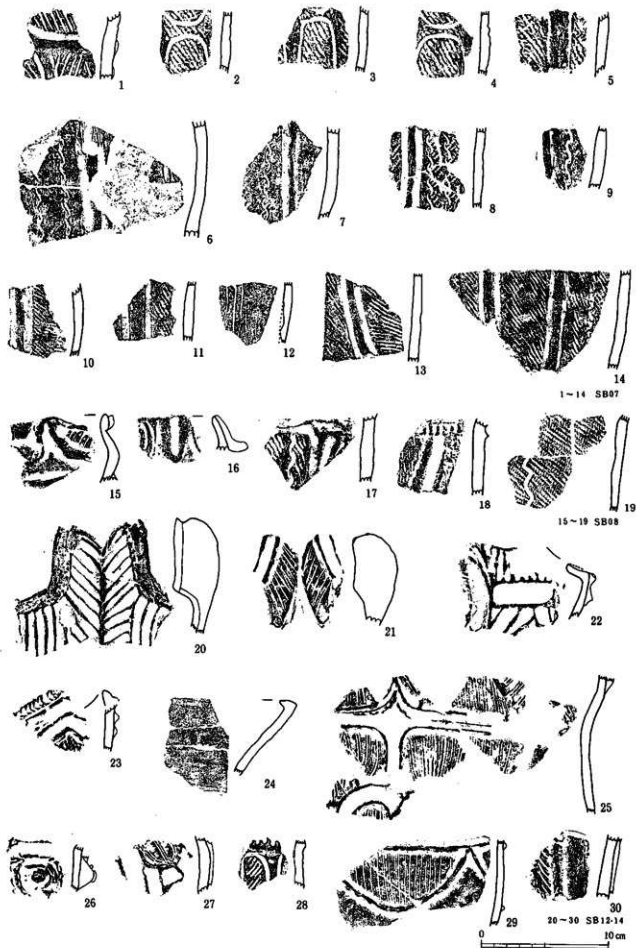
E00464	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	66×64×21	円形		
E00465	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	56×54×22	不整形		
E00466	7.5YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	56×46×16	不整形		
E00467	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	54×46×17	不整形		
E00468	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	—×54×21	不明		
E00469	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	80×(73)×20	円形	罎	
E00470	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	70×70×17	不整形		
E00471	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	38×35×17	円形		
E00472	2.5Y3/3	黄赤リ—7褐	LC	真	ややあり	—×—×18	不明		属—中期後期
E00473	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	48×46×10	円形		
E00474	7.5YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	—×40×14(31)	不明		
E00475	10YR3/2	黒褐	LC	真	ややあり	84×—×17	不明		



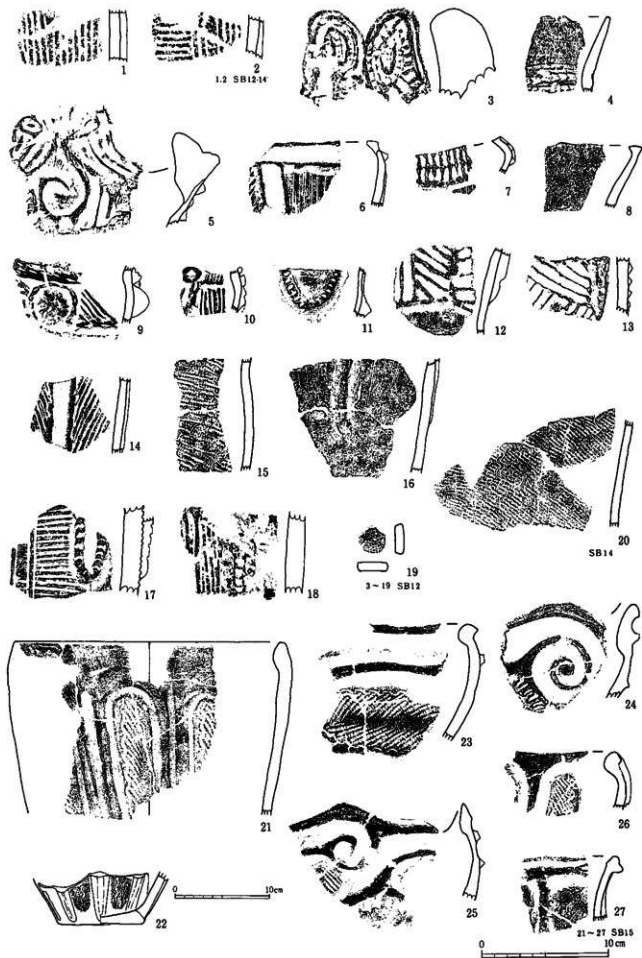
第1圖 SB04~06 出土土器



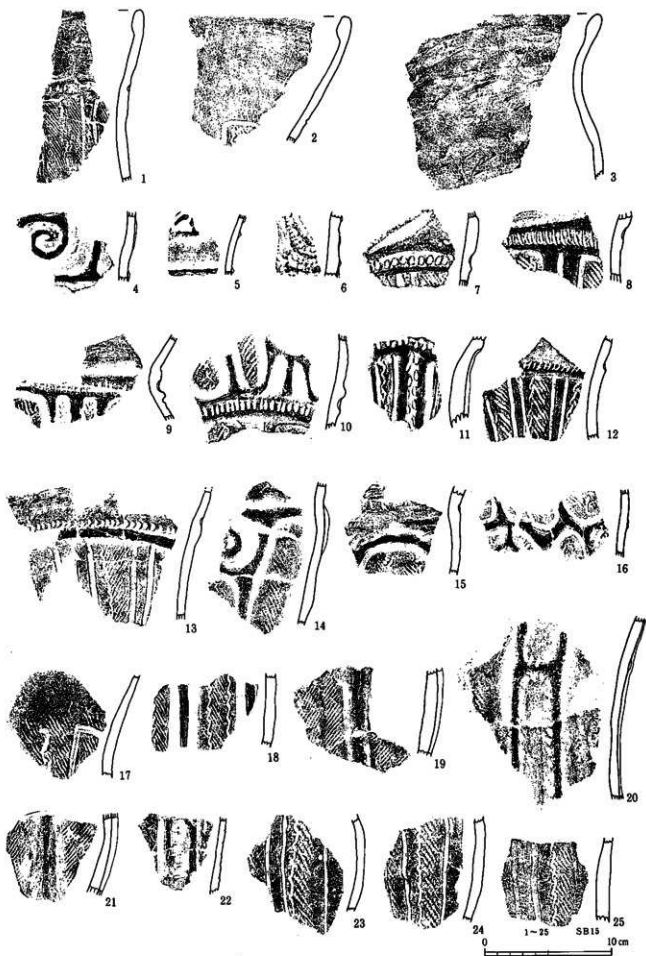
第2圖 S B 06 · 07 出土土器



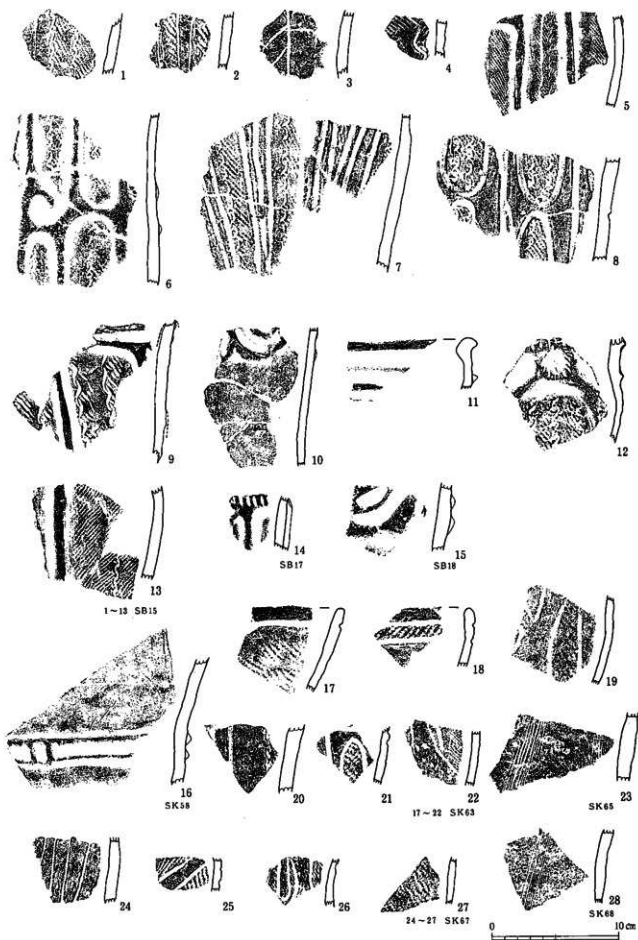
第3圖 SB07・08・12・14 出土土器



第4图 SB12·14·15 出土土器



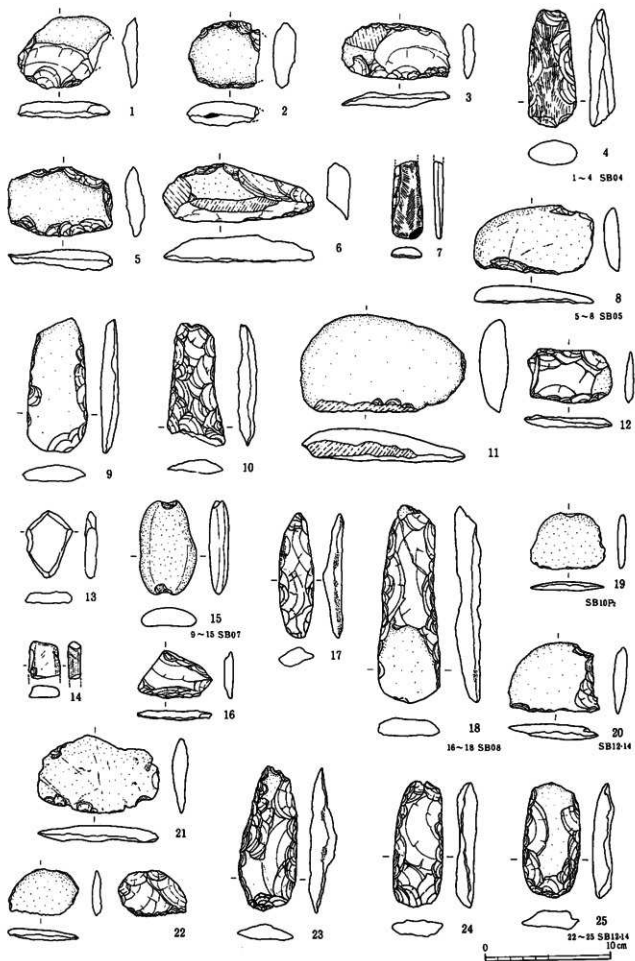
第5圖 SB 15 出土土器



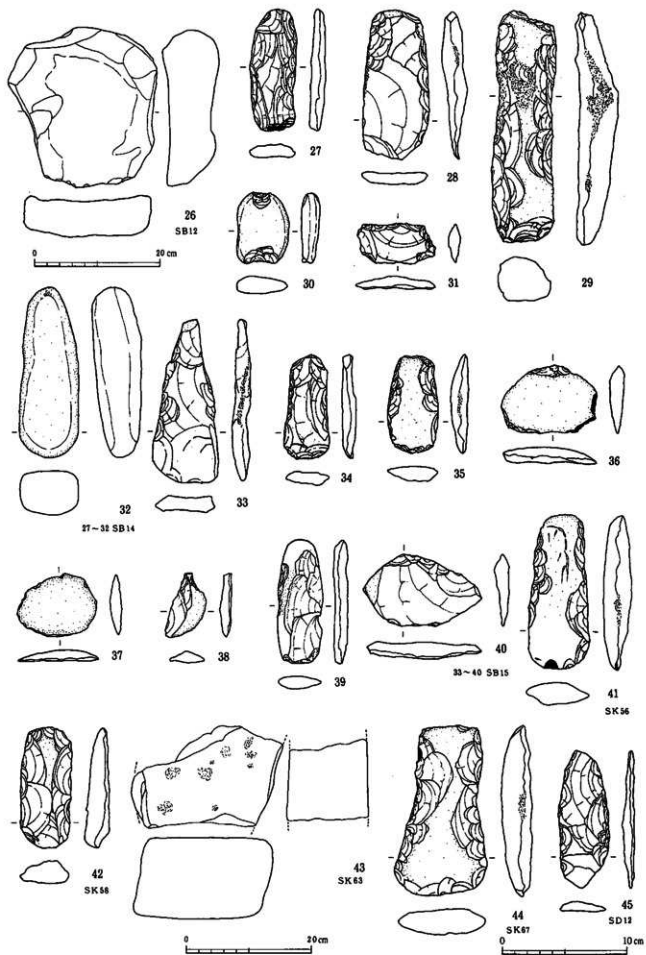
第6图 SB 15·17·18, SK 58·63·65·67·68 出土土器



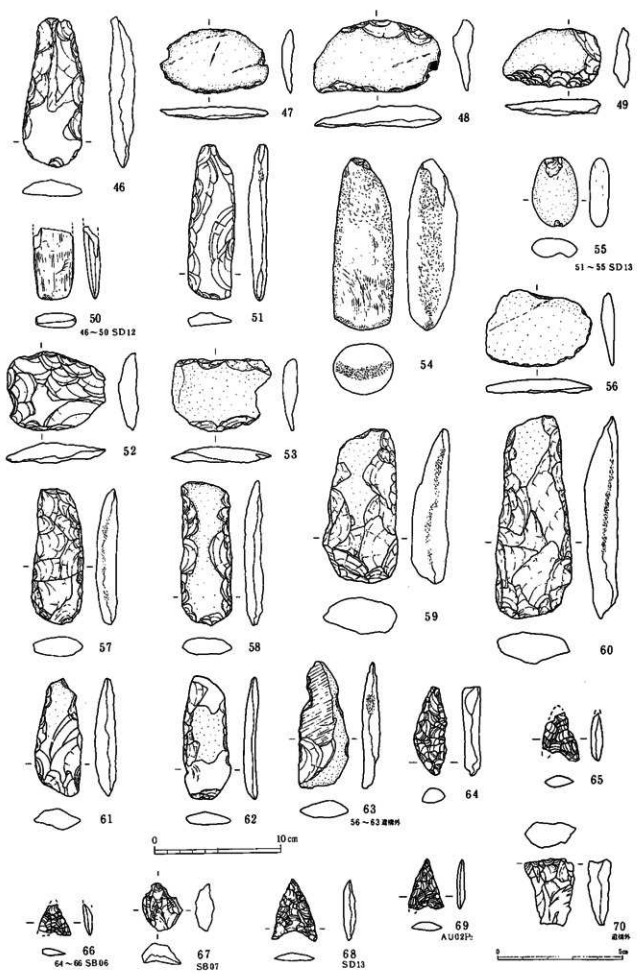
第7图 周边柱穴、遺溝外、SB16、SB03、SD12·13 出土遺物



第8圖 出土石器(1)



第9圖 出土石器(2)



第10圖 出土石器(3)

写真図版



遺溝分布状況
(S B 12・14付近)



同 上
(S B 03・S K 58付近)



同 上
(S B 04～S B 09付近)

遺溝分布状況
(S B 10・11, S D 12付近)



同上
(S M 01付近)



S B 04

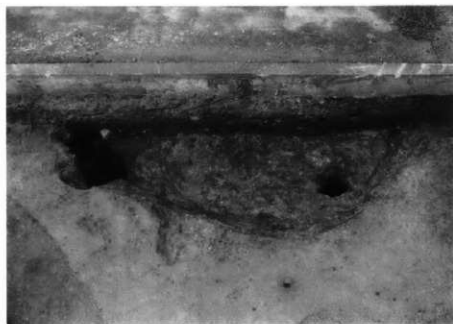




S B05

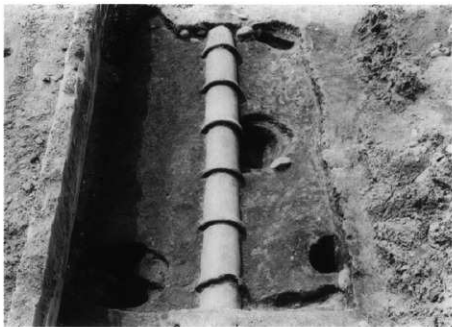


S B06



S B07

S B07



S B08



同 炉





S B 10



S B 11



S B 12 • S B 14



S B 12 炉



S B 14 P 7 (貯蔵穴)



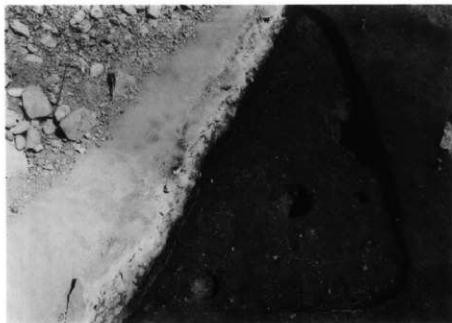
S B 14 P 9 (同上)



S B 15



同 炉



S B 17



S M02



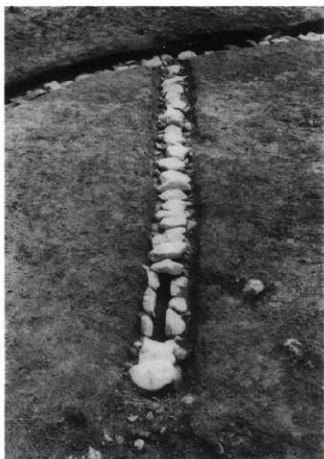
S M03



S D12



S D26



S D27



S D29



S K 58



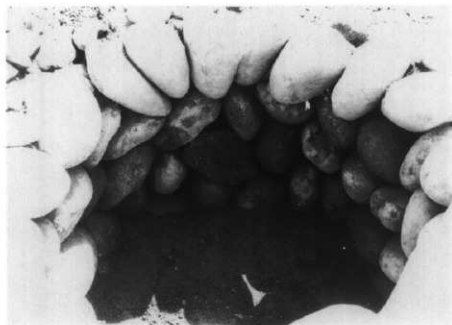
同細部



S K 71



S E02



同側面



重機作業風景



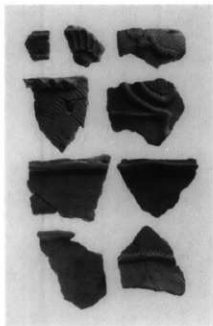
発掘作業風景



同上



委託測量作業



◀SB04



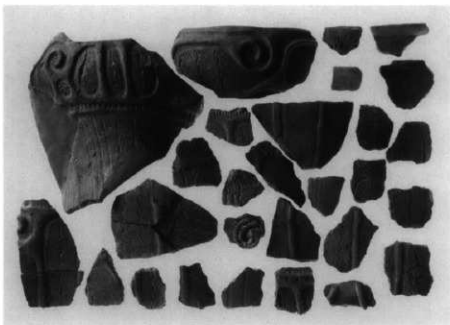
▲SB05



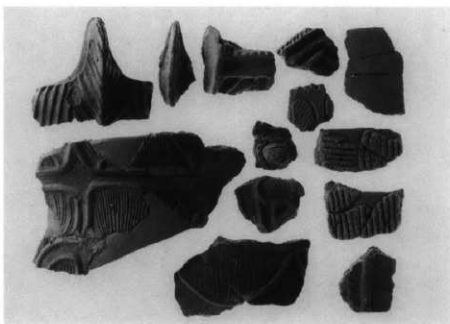
SB06



SB06



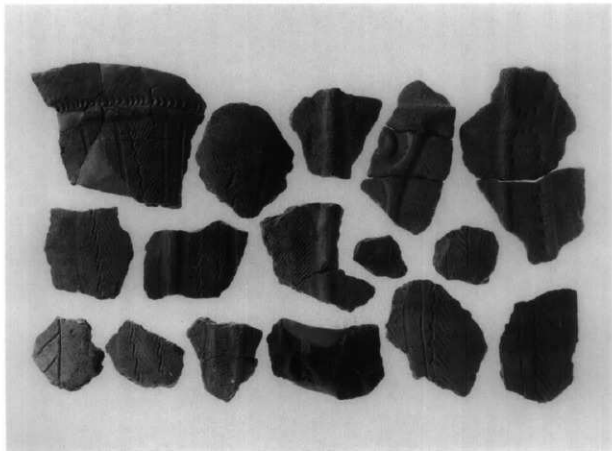
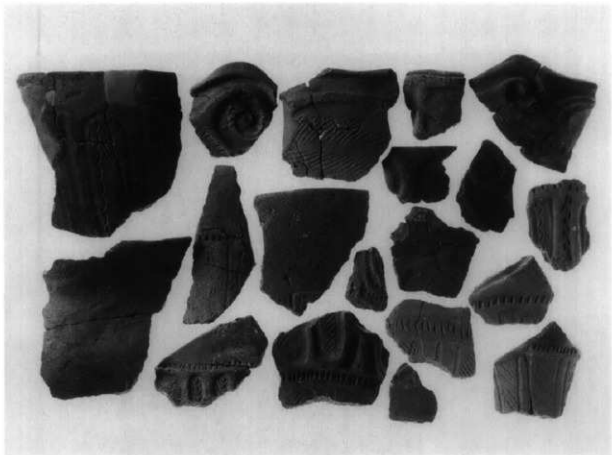
SB07



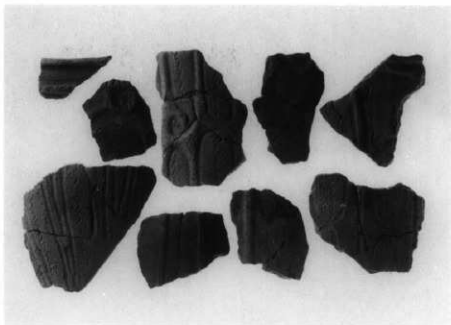
SB12 · 14



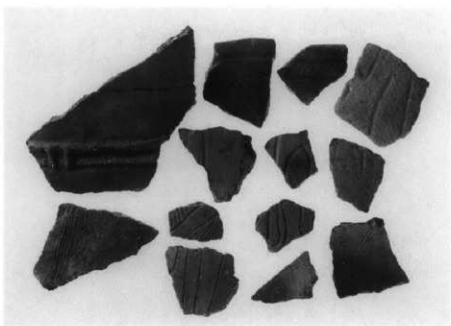
SB12



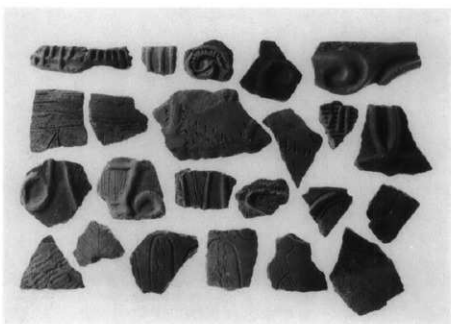
SB15



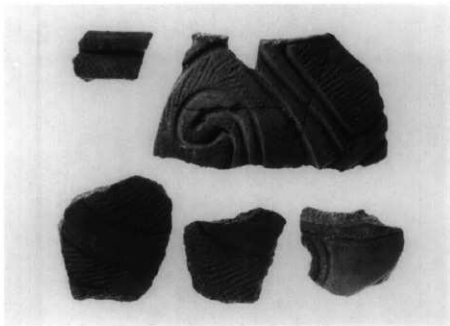
SB15



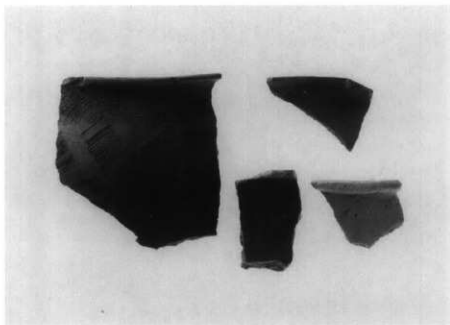
SK58・63・
65・67・68



遺構外



遺構外



SB16



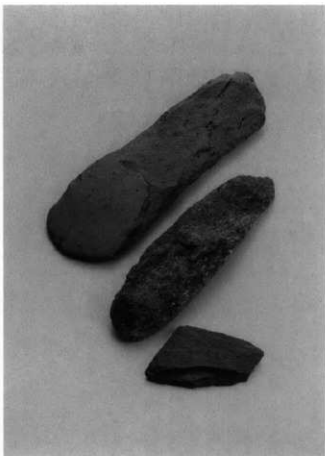
◀SB04

SB05▶





SB07



SB08



SB12・14



SB12



SB15



SK56・58・63・67



遺構外

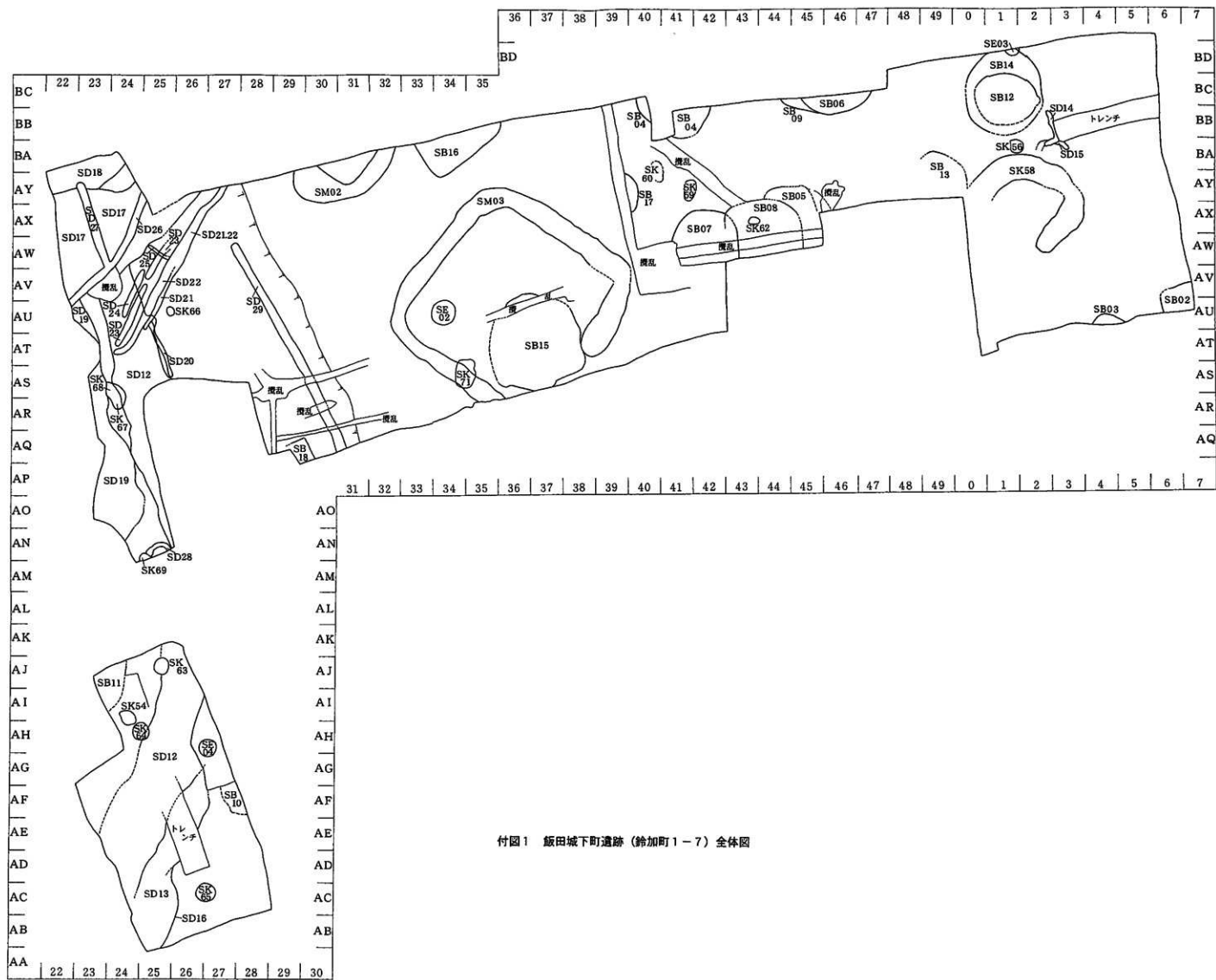
報告書抄録

ふりがな	いいだじょうかまちいせき						
書名	飯田城下町遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
編著者名	馬場 保之						
編集機関	長野県飯田市教育委員会						
所在地	〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地 ☎0265-22-4511						
発行年月日	平成16年3月15日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いいだじょうかまち 飯田城下町 いせき 遺跡	飯田市鈴加町 1-7	20205	35° 31' 00"	137° 49' 40"	平成14年9月17日 ～ 平成15年3月17日	1,513㎡	飯田郵便局建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
いいだじょうかまち 飯田城下町 いせき 遺跡	集落址 城下町	縄文時代 早期～後期 弥生時代 後期 中世 近世 近代	縄文時代中期 竪穴住居址 12棟 竪穴 4基 土坑 6基 弥生時代後期 竪穴住居址 1棟 方形周溝墓 2基 中世 溝址・溝状址 5条 近世～近代 地下室 2基 暗渠排水 3条 井戸 3基 溝址・溝状址 4条 時期不明 溝址・溝状址 2条		縄文土器 石器 弥生土器 石器 土師器 須恵器 陶・磁器	縄文時代中期および弥生時代後期の集落と近世の町屋の一面が調査された。 縄文時代の集落は住居の重複から少なくとも3小時期の変遷が把握された。 また、近世当初は惣堀の外側に位置し城下からはずれていたが、近世後期には城下に取り込まれたことが判明した。	

い い だ じょう か まち い せき
飯 田 城 下 町 遺 跡

2004年3月 発行

編集・発行 長野県飯田市大久保町2534番地
長野県飯田市教育委員会
印刷 飯 田 共 同 印 刷 機



付図1 飯田城下町遺跡(鈴加町1-7)全体図

